

Q001

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：基礎

学習テーマ「法的定義」について、研修中の受験者が「医師等の指示なしで独立して照射する者である」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。
- イ：原則として室内に操作場所を設けない規定があり、法令上の例外に該当する場合を除き計画を見直す。施行規則は原則禁止と一定の例外を定める。
- ウ：放射線障害防止について必要な監督を行う。法令遵守と障害防止を監督する。
- エ：放射線診療に従事する者に安全利用のための研修を実施する。組織的教育が求められる。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。資格定義と指示関係は法規の基本である。
- イ：この内容は「X線室操作位置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「放射線取扱主任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「安全利用研修」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「法的定義」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。資格定義と指示関係は法規の基本である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q002

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：基礎

学習テーマ「名称独占」の勉強会資料に「免許取得者も名称を用いてはならない」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：5年間につき100 mSvを超えず、かつ1年間につき50 mSvを超えない。規則第4条の基準である。
- イ：診療放射線技師でない者は、診療放射線技師またはこれに紛らわしい名称を用いてはならない。法第25条の内容である。
- ウ：放射線診療に従事する者に安全利用のための研修を実施する。組織的教育が求められる。
- エ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第26条に基づく。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「職業実効線量限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。国家資格として名称が保護されている。
- ウ：この内容は「安全利用研修」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「具体的指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「名称独占」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。国家資格として名称が保護されている。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q003

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：基礎
学習テーマ「守秘義務」の口頭試問で受験者が「学習目的なら実名公開してよい」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

- ア：原則として制限されるが、法令で定める出張撮影や集団健診などの例外がある。法第26条に原則と例外がある。
イ：1年間につき500 mSv。組織等価線量と実効線量を区別する。
ウ：正当な理由なく業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならず、資格者でなくなった後も同様である。秘密保持義務は業務離脱後も継続する。
エ：法定限度以下でも、防護の最適化と作業環境改善を継続する。線量限度は目標値ではない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「病院外業務」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「皮膚限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。診療画像・検査情報も慎重に扱う。
エ：この内容は「限度と最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「守秘義務」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。診療画像・検査情報も慎重に扱う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q004

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：標準
学習テーマ「具体的指示」の誤答分析で「医療事務職員の指示だけで照射できる」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：所定事項を記載し、10日以内に届出を行う。施行規則第24条の2に規定される。
イ：1年間につき500 mSv。組織等価線量と実効線量を区別する。
ウ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第24条の2第2号の要件である。
エ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第26条に基づく。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「X線装置届出」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「皮膚限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「診療補助行為の指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。人体への照射では指示系統を守る。

総合解説：この問題では「具体的指示」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。人体への照射では指示系統を守る。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q005

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：標準

学習テーマ「MRI・超音波の業務範囲」を扱う実習中の説明に「放射線を使わないため一切行えない」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：法令で定める範囲で、医師または歯科医師の指示の下に行うことができる。法第24条の2に規定される。
- イ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第26条に基づく。
- ウ：3月間につき1.3 mSvを超えるおそれのある区域。管理区域基準の一つである。
- エ：人が常時出入りする出入口を一箇所とし、放射線発生時に自動表示する装置を設ける。規則の要求である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。業務は電離放射線照射だけに限定されない。
- イ：この内容は「具体的指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「管理区域基準」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「高エネルギー装置室出入口」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「MRI・超音波の業務範囲」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。業務は電離放射線照射だけに限定されない。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q006

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：標準

学習テーマ「診療補助行為の指示」で「予約票があれば必ず指示不要となる」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。
- イ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第24条の2第2号の要件である。
- ウ：法的に可能であることだけを理由に実施せず、教育・技能・指示・安全体制を整えた上で行う。業務範囲内でも安全な実施能力と体制が必要である。
- エ：1 mSv。妊娠中には腹部表面等価線量にも別基準がある。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。診療補助行為には具体的指示が必要である。
- ウ：この内容は「業務範囲と安全体制」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「妊娠中内部被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「診療補助行為の指示」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。診療補助行為には具体的指示が必要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q007

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：標準
学習テーマ「造影剤関連行為」について次の誤ったメモをレビューする。「造影検査と無関係な外科処置を独自判断で行う」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：1年間につき500 mSv。組織等価線量と実効線量を区別する。
- イ：1 mSv。妊娠中には腹部表面等価線量にも別基準がある。
- ウ：省令で定める範囲で、静脈路への造影剤注入装置の接続・操作、投与終了後の抜針・止血等を行う。施行規則に具体的行為が列挙されている。
- エ：診療用放射線の安全利用のための責任者を配置する。規則に定められている。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「皮膚限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「妊娠中内部被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。省令列挙の範囲を正確に理解する。
- エ：この内容は「安全管理責任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「造影剤関連行為」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。省令列挙の範囲を正確に理解する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q008

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：標準
学習テーマ「病院外業務」の新人教育で「どのような条件でも病院外では絶対に業務できない」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：エックス線診療室である旨を示す標識を付する。規則に定められている。
- イ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第24条の2第2号の要件である。
- ウ：被ばく状況を把握し、適正化・最適化の改善へつなげる。線量記録は改善の基礎資料となる。
- エ：原則として制限されるが、法令で定める出張撮影や集団健診などの例外がある。法第26条に原則と例外がある。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「診療補助行為の指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「患者線量管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。原則と例外を区別する。

総合解説：この問題では「病院外業務」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。原則と例外を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q009

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：応用
学習テーマ「核医学投与装置関連行為」で受験者が「診療放射線技師には一切認められない」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：診療放射線技師法施行規則に規定された行為に含まれる。核医学検査用投与装置の接続・操作等は省令に規定される。
- イ：原則として室内に操作場所を設けない規定があり、法令上の例外に該当する場合を除き計画を見直す。施行規則は原則禁止と一定の例外を定める。
- ウ：放射線障害防止について必要な監督を行う。法令遵守と障害防止を監督する。
- エ：5年間につき100 mSvを超えず、かつ1年間につき50 mSvを超えない。規則第4条の基準である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。法令上の可否と安全要件を合わせて判断する。
イ：この内容は「X線室操作位置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「放射線取扱主任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「職業実効線量限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「核医学投与装置関連行為」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。法令上の可否と安全要件を合わせて判断する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q010

6-1 関係法規 / 診療放射線技師法・業務範囲 難易度：応用
学習テーマ「業務範囲と安全体制」で類似概念を整理する中、「法律に列挙されていれば研修は不要である」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：3月間につき1.3 mSvを超えるおそれのある区域。管理区域基準の一つである。
- イ：法的に可能であることだけを理由に実施せず、教育・技能・指示・安全体制を整えた上で行う。業務範囲内でも安全な実施能力と体制が必要である。
- ウ：線量記録だけでは不十分であり、責任者配置・指針・研修・改善策を含む安全管理体制を整備する。複数要素からなる体制が必要である。
- エ：荷電粒子を加速して放射線を発生する。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「管理区域基準」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。法的権限と安全能力を両立させる。
ウ：この内容は「安全管理体制総合」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「放射線発生装置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「業務範囲と安全体制」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。法的権限と安全能力を両立させる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q011

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：基礎
学習テーマ「安全管理責任者」について、研修中の受験者が「安全利用研修は行ってはならない」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。
- イ：法令で定める範囲で、医師または歯科医師の指示の下に行うことができる。法第24条の2に規定される。
- ウ：診療用放射線の安全利用のための責任者を配置する。規則に定められている。
- エ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第24条の2第2号の要件である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「MRI・超音波の業務範囲」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。責任者・指針・研修・線量管理で体制を構成する。
- エ：この内容は「診療補助行為の指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「安全管理責任者」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。責任者・指針・研修・線量管理で体制を構成する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q012

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：基礎
学習テーマ「安全利用指針」の勉強会資料に「画像部門だけ患者確認を免除する」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：原則として室内に操作場所を設けない規定があり、法令上の例外に該当する場合を除き計画を見直す。施行規則は原則禁止と一定の例外を定める。
- イ：3月間につき1.3 mSvを超えるおそれのある区域。管理区域基準の一つである。
- ウ：法定限度以下でも、防護の最適化と作業環境改善を継続する。線量限度は目標値ではない。

エ：安全利用のための指針を策定する。安全管理体制の一部である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「X線室操作位置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「管理区域基準」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「限度と最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。施設の安全方針を明文化する。

総合解説：この問題では「安全利用指針」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。施設の安全方針を明文化する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q013

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：基礎
学習テーマ「安全利用研修」の口頭試問で受験者が「装置メーカーだけが受講する」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

ア：放射線診療に従事する者に安全利用のための研修を実施する。組織的教育が求められる。
イ：3月間につき1.3 mSvを超えるおそれのある区域。管理区域基準の一つである。
ウ：法定限度以下でも、防護の最適化と作業環境改善を継続する。線量限度は目標値ではない。

エ：法的に可能であることだけを理由に実施せず、教育・技能・指示・安全体制を整えた上で行う。業務範囲内でも安全な実施能力と体制が必要である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。継続的な安全教育が重要である。
イ：この内容は「管理区域基準」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「限度と最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「業務範囲と安全体制」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「安全利用研修」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。継続的な安全教育が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q014

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：標準
学習テーマ「X線装置届出」の誤答分析で「初回患者撮影まで待てる」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

ア：医療法だけでなく、RI規制法や電離放射線障害防止規則など複数法令を確認する。目的の異なる法令が重層的に適用され得る。
イ：所定事項を記載し、10日以内に届出を行う。施行規則第24条の2に規定される。
ウ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第26条に基づく。
エ：被ばく状況を把握し、適正化・最適化の改善へつなげる。線量記録は改善の基礎資料となる。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「複数法令適用」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。設置時の届出期限を理解する。
ウ：この内容は「具体的指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「患者線量管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「X線装置届出」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。設置時の届出期限を理解する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q015

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：標準

学習テーマ「X線室遮蔽基準」を扱う実習中の説明に「1時間につき1 Sv以下でよい」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。
- イ：診療放射線技師法施行規則に規定された行為に含まれる。核医学検査用投与装置の接続・操作等は省令に規定される。
- ウ：原則として画壁等の外側の実効線量が1週間に付き1 mSv以下となるよう遮蔽できること。規則の構造設備基準である。
- エ：放射線障害防止について必要な監督を行う。法令遵守と障害防止を監督する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「核医学投与装置関連行為」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。施設遮蔽基準と個人線量限度を区別する。
- エ：この内容は「放射線取扱主任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「X線室遮蔽基準」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。施設遮蔽基準と個人線量限度を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q016

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：標準

学習テーマ「X線室標識」で「標識を付けてはならない」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：RIや放射線発生装置等の取扱いを規制し、放射線障害を防止するとともに公共の安全を確保する。同法の目的である。
- イ：線量記録だけでは不十分であり、責任者配置・指針・研修・改善策を含む安全管理体制を整備する。複数要素からなる体制が必要である。
- ウ：法定限度以下でも、防護の最適化と作業環境改善を継続する。線量限度は目標値ではない。

エ：エックス線診療室である旨を示す標識を付する。規則に定められている。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「RI規制法目的」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「安全管理体制総合」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「限度と最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。不要な立入り防止にも役立つ。

総合解説：この問題では「X線室標識」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。不要な立入り防止にも役立つ。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q017

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：標準

学習テーマ「高エネルギー装置室出入口」について次の誤ったメモをレビューする。「出入口は無制限に設ける」これに対する修正案として最も適切なものはどれか。

- ア：人が常時出入りする出入口を一箇所とし、放射線発生時に自動表示する装置を設ける。規則の要求である。
- イ：正当な理由なく業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならず、資格者でなくなった後も同様である。秘密保持義務は業務離脱後も継続する。
- ウ：被ばく状況を把握し、適正化・最適化の改善へつなげる。線量記録は改善の基礎資料となる。
- エ：3月間につき1.3 mSvを超えるおそれのある区域。管理区域基準の一つである。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。治療室では構造的安全措施を多重化する。
- イ：この内容は「守秘義務」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「患者線量管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「管理区域基準」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「高エネルギー装置室出入口」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。治療室では構造的安全措施を多重化する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q018

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：標準

学習テーマ「患者線量管理」の新人教育で「記録値を安全管理に使ってはならない」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：5年間につき100 mSvかつ1年間につき50 mSv。現行の等価線量限度である。
- イ：被ばく状況を把握し、適正化・最適化の改善へつなげる。線量記録は改善の基礎資料となる。
- ウ：省令で定める範囲で、静脈路への造影剤注入装置の接続・操作、投与終了後の抜針・止血等を行う。施行規則に具体的行為が列挙されている。
- エ：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「水晶体限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。記録と評価を改善へつなげる。
- ウ：この内容は「造影剤関連行為」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「患者線量管理」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。記録と評価を改善へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q019

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：応用
学習テーマ「X線室操作位置」で受験者が「遮蔽の有無にかかわらず室内操作は自由である」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：省令で定める範囲で、静脈路への造影剤注入装置の接続・操作、投与終了後の抜針・止血等を行う。施行規則に具体的行為が列挙されている。
- イ：エックス線診療室である旨を示す標識を付する。規則に定められている。
- ウ：原則として室内に操作場所を設けない規定があり、法令上の例外に該当する場合を除き計画を見直す。施行規則は原則禁止と一定の例外を定める。
- エ：正当な理由なく業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならず、資格者でなくなった後も同様である。秘密保持義務は業務離脱後も継続する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「造影剤関連行為」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。施設設計時に法令基準を確認する。
- エ：この内容は「守秘義務」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「X線室操作位置」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。施設設計時に法令基準を確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q020

6-1 関係法規 / 医療法・医療法施行規則 難易度：応用
学習テーマ「安全管理体制総合」で類似概念を整理する中、「線量記録があれば他の安全管理は不要である」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：エックス線診療室である旨を示す標識を付する。規則に定められている。
- イ：安全利用のための指針を策定する。安全管理体制の一部である。
- ウ：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。
- エ：線量記録だけでは不十分であり、責任者配置・指針・研修・改善策を含む安全管理体制を整備する。複数要素からなる体制が必要である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「安全利用指針」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。人・手順・教育・データを統合して管理する。

総合解説：この問題では「安全管理体制総合」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。人・手順・教育・データを統合して管理する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q021

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：基礎
学習テーマ「RI規制法目的」について、研修中の受験者が「放射線利用を全面禁止する」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：RIや放射線発生装置等の取扱いを規制し、放射線障害を防止するとともに公共の安全を確保する。同法の目的である。
イ：診療用放射線の安全利用のための責任者を配置する。規則に定められている。
ウ：放射線障害防止について必要な監督を行う。法令遵守と障害防止を監督する。
エ：エックス線診療室である旨を示す標識を付する。規則に定められている。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。法令ごとの規制対象と目的を区別する。
イ：この内容は「安全管理責任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「放射線取扱主任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「RI規制法目的」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。法令ごとの規制対象と目的を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q022

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：基礎
学習テーマ「放射線発生装置」の勉強会資料に「超音波診断装置」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：5年間につき100 mSvかつ1年間につき50 mSv。現行の等価線量限度である。
イ：荷電粒子を加速して放射線を発生する。
ウ：所定事項を記載し、10日以内に届出を行う。施行規則第24条の2に規定される。
エ：診療放射線技師でない者は、診療放射線技師またはこれに紛らわしい名称を用いてはならない。法第25条の内容である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「水晶体限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。PET核種製造施設で関係する。
ウ：この内容は「X線装置届出」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「名称独占」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「放射線発生装置」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。PET核種製造施設で関係する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q023

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：基礎
学習テーマ「放射線取扱主任者」の口頭試問で受験者が「国家試験の採点だけを行う」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

- ア：荷電粒子を加速して放射線を発生する。
- イ：原則として制限されるが、法令で定める出張撮影や集団健診などの例外がある。法第26条に原則と例外がある。
- ウ：放射線障害防止について必要な監督を行う。法令遵守と障害防止を監督する。
- エ：医療法だけでなく、RI規制法や電離放射線障害防止規則など複数法令を確認する。目的の異なる法令が重層的に適用され得る。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「放射線発生装置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「病院外業務」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。安全管理上の重要な責任者である。
- エ：この内容は「複数法令適用」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「放射線取扱主任者」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。安全管理上の重要な責任者である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q024

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：標準
学習テーマ「職業実効線量限度」の誤答分析で「1年間につき100 mSvだけ」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：原則として室内に操作場所を設けない規定があり、法令上の例外に該当する場合を除き計画を見直す。施行規則は原則禁止と一定の例外を定める。
- イ：荷電粒子を加速して放射線を発生する。
- ウ：1年間につき500 mSv。組織等価線量と実効線量を区別する。
- エ：5年間につき100 mSvを超えず、かつ1年間につき50 mSvを超えない。規則第4条の基準である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「X線室操作位置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「放射線発生装置」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「皮膚限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。長期平均と単年上限を併用する。

総合解説：この問題では「職業実効線量限度」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。長期平均と単年上限を併用する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q025

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：標準
学習テーマ「水晶体限度」を扱う実習中の説明に「1年間につき500 mSvだけ」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：5年間につき100 mSvかつ1年間につき50 mSv。現行の等価線量限度である。
イ：法令で定める範囲で、医師または歯科医師の指示の下に行うことができる。法第24条の2に規定される。
ウ：5年間につき100 mSvを超えず、かつ1年間につき50 mSvを超えない。規則第4条の基準である。
エ：線量記録だけでは不十分であり、責任者配置・指針・研修・改善策を含む安全管理体制を整備する。複数要素からなる体制が必要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。水晶体線量を適切に管理する。
イ：この内容は「MRI・超音波の業務範囲」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「職業実効線量限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「安全管理体制総合」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「水晶体限度」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。水晶体線量を適切に管理する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q026

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：標準
学習テーマ「皮膚限度」で「5年間につき100 mSvだけ」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：5年間につき100 mSvを超えず、かつ1年間につき50 mSvを超えない。規則第4条の基準である。
イ：1年間につき500 mSv。組織等価線量と実効線量を区別する。
ウ：安全利用のための指針を策定する。安全管理体制の一部である。
エ：原則として画壁等の外側の実効線量が1週間につき1 mSv以下となるよう遮蔽できること。規則の構造設備基準である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「職業実効線量限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。組織等価線量と実効線量を区別する。
ウ：この内容は「安全利用指針」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「X線室遮蔽基準」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「皮膚限度」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。組織等価線量と実効線量を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q027

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：標準
学習テーマ「管理区域基準」について次の誤ったメモをレビューする。「1日につき100 mSvを超える区域」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。
イ：1年間につき500 mSv。組織等価線量と実効線量を区別する。
ウ：3月間につき1.3 mSvを超えるおそれのある区域。管理区域基準の一つである。
エ：人が常時出入りする出入口を一箇所とし、放射線発生時に自動表示する装置を設ける。規則の要求である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「皮膚限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。区域設定は立入管理の基礎である。
エ：この内容は「高エネルギー装置室出入口」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「管理区域基準」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。区域設定は立入管理の基礎である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q028

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：標準
学習テーマ「妊娠中内部被ばく」の新人教育で「500 mSv」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：被ばく状況を把握し、適正化・最適化の改善へつなげる。線量記録は改善の基礎資料となる。
イ：放射線診療に従事する者に安全利用のための研修を実施する。組織的教育が求められる。
ウ：エックス線診療室である旨を示す標識を付する。規則に定められている。
エ：1 mSv。妊娠中には腹部表面等価線量にも別基準がある。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「患者線量管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「安全利用研修」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。妊娠中には腹部表面等価線量にも別基準がある。

総合解説：この問題では「妊娠中内部被ばく」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。妊娠中には腹部表面等価線量にも別基準がある。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q029

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：応用
学習テーマ「複数法令適用」で受験者が「医療施設なので医療法以外は適用されない」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：医療法だけでなく、RI規制法や電離放射線障害防止規則など複数法令を確認する。目的の異なる法令が重層的に適用され得る。
イ：放射線診療に従事する者に安全利用のための研修を実施する。組織的教育が求められる。
ウ：被ばく状況を把握し、適正化・最適化の改善へつなげる。線量記録は改善の基礎資料となる。
エ：医師または歯科医師の具体的な指示を受ける。法第24条の2第2号の要件である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。規制目的ごとに適用法令を確認する。
イ：この内容は「安全利用研修」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「患者線量管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「診療補助行為の指示」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「複数法令適用」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。規制目的ごとに適用法令を確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q030

6-1 関係法規 / RI規制法・電離放射線障害防止規則 難易度：応用
学習テーマ「限度と最適化」で類似概念を整理する中、「管理区域内では防護具を使ってはならない」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：放射線障害防止について必要な監督を行う。法令遵守と障害防止を監督する。
イ：法定限度以下でも、防護の最適化と作業環境改善を継続する。線量限度は目標値ではない。

- ウ：法的に可能であることだけを理由に実施せず、教育・技能・指示・安全体制を整えた上で行う。業務範囲内でも安全な実施能力と体制が必要である。
エ：厚生労働大臣の免許を受け、医師または歯科医師の指示の下に放射線の人体への照射を業とする者である。法の定義に合致する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「放射線取扱主任者」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。法令遵守に加え継続的な低減が重要である。
ウ：この内容は「業務範囲と安全体制」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「法的定義」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「限度と最適化」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。法令遵守に加え継続的な低減が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q031

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：基礎
学習テーマ「正当化」について、研修中の受験者が「医療被ばくでは正当化を考えない」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：全身計測、甲状腺計測、排泄物のバイオアッセイなどを核種に応じて用いる。体内放射能や摂取量を評価する。
- イ：臓器・組織の吸収線量に放射線の種類による放射線加重係数を考慮した防護量である。放射線種の影響差を防護上反映する。
- ウ：検査や治療による期待利益が放射線による不利益を上回るように判断する。正当化の原則である。
- エ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「内部被ばく評価」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「等価線量」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。適切な検査選択と重複回避が重要である。
- エ：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「正当化」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。適切な検査選択と重複回避が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q032

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：基礎
学習テーマ「最適化」の勉強会資料に「線量を常に0にすることだけを意味する」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：一般の職業・公衆被ばくのような線量限度を適用するのではなく、正当化と最適化を行う。患者医療被ばくでは正当化と最適化が中心である。
- イ：標準的な検査の線量が不必要に高くないかを見直すための最適化ツールである。DRLは施設線量の見直しに用いる。
- ウ：患者自身の診療目的の被ばくである。
- エ：必要な診断・治療目的を満たしつつ、被ばくを合理的に達成可能な限り低くする。単純な線量最小化ではない。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「医療被ばくと限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「DRLの位置づけ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「患者被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。必要な診療情報とのバランスで最適化する。

総合解説：この問題では「最適化」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。必要な診療情報とのバランスで最適化する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q033

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：基礎
学習テーマ「DRLの位置づけ」の口頭試問で受験者が「DRL未満なら画質確認は不要である」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

- ア：標準的な検査の線量が不必要に高くないかを見直すための最適化ツールである。DRLは施設線量の見直しに用いる。
- イ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。
- ウ：プロトコル、装置設定、患者体格、画質などを調査し、正当な理由がなければ最適化する。DRL超過は見直しの契機である。
- エ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。日本ではJapan DRLs 2025が現行の参照基準である。
イ：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「DRL超過対応」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「DRL未満時の見直し」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「DRLの位置づけ」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。日本ではJapan DRLs 2025が現行の参照基準である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q034

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：標準
学習テーマ「医療被ばくと限度」の誤答分析で「職業被ばくの年50 mSv限度をそのまま患者へ適用する」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：作業場所の線量率や表面汚染などを目的に応じて測定する。区域管理等に用いる。
- イ：一般の職業・公衆被ばくのような線量限度を適用するのではなく、正当化と最適化を行う。患者医療被ばくでは正当化と最適化が中心である。
- ウ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。
- エ：まず検査の医学的利益を正当化し、その上で必要画質を保ちながら線量を最適化する。正当化と最適化の順序である。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「サーベイメータ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。被ばくカテゴリーで防護体系が異なる。
ウ：この内容は「DRL未満時の見直し」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「正当化と最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「医療被ばくと限度」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。被ばくカテゴリーで防護体系が異なる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q035

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：標準
学習テーマ「DRL超過対応」を扱う実習中の説明に「画像が良ければ線量検討は不要である」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：体格や検査目的に応じて条件を調整し、必要画質を保ちながら線量を低減する。体格適応型プロトコルが重要である。
- イ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。
- ウ：プロトコル、装置設定、患者体格、画質などを調査し、正当な理由がなければ最適化する。DRL超過は見直しの契機である。
- エ：作業場所の線量率や表面汚染などを目的に応じて測定する。区域管理等に用いる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「小児最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「DRL未満時の見直し」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。線量と画質を同時に評価する。
- エ：この内容は「サーベイメータ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「DRL超過対応」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。線量と画質を同時に評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q036

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：標準
学習テーマ「DRL未満時の見直し」で「DRL未満なので変更してはいけない」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：実効線量は防護的な指標であり、個別臓器リスク評価には臓器吸収線量なども考慮する。実効線量は個別臓器線量そのものではない。
- イ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。
- ウ：汚染拡大を避けて手指を適切に除染し、口や顔へ触れず、必要に応じて摂取評価を行う。皮膚汚染から内部摂取へ進む可能性がある。
- エ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「実効線量の限界」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「皮膚汚染と内部被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。低すぎる線量による再撮影も避ける。

総合解説：この問題では「DRL未満時の見直し」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。低すぎる線量による再撮影も避ける。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q037

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：標準
学習テーマ「重複検査の正当化」について次の誤ったメモをレビューする。「放射線検査は回数に関係なく正当化不要である」これに対する修正案として最も適切なものはどれか。

- ア：既存画像で臨床目的を満たせるか確認し、重複検査の必要性を再評価する。不要な重複回避は正当化に直結する。
- イ：プロトコル、装置設定、患者体格、画質などを調査し、正当な理由がなければ最適化する。DRL超過は見直しの契機である。
- ウ：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。
- エ：施設手順に従い、体幹線量と頭頸部・水晶体線量を適切に評価できる位置へ線量計を装着する。不均等被ばくでは複数部位の評価が必要となることがある。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。過去画像確認は被ばく低減にも寄与する。
- イ：この内容は「DRL超過対応」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「被ばく区分と限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「不均等被ばく測定」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「重複検査の正当化」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。過去画像確認は被ばく低減にも寄与する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q038

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：標準
学習テーマ「小児最適化」の新人教育で「画質を確認せず最低mAsだけ使う」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：必要な診断・治療目的を満たしつつ、被ばくを合理的に達成可能な限り低くする。単純な線量最小化ではない。
- イ：体格や検査目的に応じて条件を調整し、必要画質を保ちながら線量を低減する。体格適応型プロトコルが重要である。
- ウ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。
- エ：実効線量は防護的な指標であり、個別臓器リスク評価には臓器吸収線量なども考慮する。実効線量は個別臓器線量そのものではない。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。DRLと個別最適化を区別する。
- ウ：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「実効線量の限界」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「小児最適化」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。DRLと個別最適化を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q039

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：応用
学習テーマ「DRLと法定限度」で受験者が「完全に正しい。DRLは患者の法定上限である」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：各臓器・組織の等価線量に組織荷重係数を掛けて合計した防護量である。全身の確率的影響リスクを防護目的で代表する。
イ：職業放射線業務でも医療目的でもないため公衆被ばくとして管理する。
ウ：DRLは患者個人の線量限度ではないため、その理由だけで違反とはいえず、臨床必要性和最適化の観点で原因を評価する。DRLは見直しのシグナルである。
エ：全身計測、甲状腺計測、排泄物のバイオアッセイなどを核種に応じて用いる。体内放射能や摂取量を評価する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「実効線量」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「公衆被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。DRLと線量限度を混同しない。
エ：この内容は「内部被ばく評価」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「DRLと法定限度」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。DRLと線量限度を混同しない。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q040

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 正当化・最適化・線量限度・DRL 難易度：応用
学習テーマ「正当化と最適化」で類似概念を整理する中、「まず線量を最低にし、その後検査目的を考える」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：必要な診断・治療目的を満たしつつ、被ばくを合理的に達成可能な限り低くする。単純な線量最小化ではない。
イ：測定値と基準量の関係を確認し、追跡可能で信頼できる測定を行うため。校正は測定精度の基礎である。
ウ：職業放射線業務でも医療目的でもないため公衆被ばくとして管理する。
エ：まず検査の医学的利益を正当化し、その上で必要画質を保ちながら線量を最適化する。正当化と最適化の順序である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「測定器校正」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「公衆被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。一連の安全プロセスとして実践する。

総合解説：この問題では「正当化と最適化」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。一連の安全プロセスとして実践する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q041

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：基礎
学習テーマ「吸収線量単位」について、研修中の受験者が「シーベルト Sv」と説明した。
この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：1 Gyは1 kgあたり1 Jのエネルギー吸収に相当する。
イ：作業場所の線量率や表面汚染などを目的に応じて測定する。区域管理等に用いる。
ウ：検査や治療による期待利益が放射線による不利益を上回るように判断する。正当化の原則である。
エ：標準的な検査の線量が不必要に高くないかを見直すための最適化ツールである。DRLは施設線量の見直しに用いる。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。物理量と防護量を区別する。
イ：この内容は「サーベイメータ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「正当化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「DRLの位置づけ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「吸収線量単位」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。物理量と防護量を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q042

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：基礎
学習テーマ「実効線量単位」の勉強会資料に「ベクレル Bq」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：1 Gyは1 kgあたり1 Jのエネルギー吸収に相当する。
イ：シーベルト Sv。実効線量は防護目的に用いる。
ウ：DRLは患者個人の線量限度ではないため、その理由だけで違反とはいえず、臨床必要性和最適化の観点で原因を評価する。DRLは見直しのシグナルである。
エ：患者自身の診療目的の被ばくである。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「吸収線量単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。実効線量は防護目的に用いる。
ウ：この内容は「DRLと法定限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「患者被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「実効線量単位」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。実効線量は防護目的に用いる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q043

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：基礎
学習テーマ「放射能単位」の口頭試問で受験者が「Sv」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なものはどれか。

- ア：施設手順に従い、体幹線量と頭頸部・水晶体線量を適切に評価できる位置へ線量計を装着する。不均等被ばくでは複数部位の評価が必要となることがある。
- イ：汚染拡大を避けて手指を適切に除染し、口や顔へ触れず、必要に応じて摂取評価を行う。皮膚汚染から内部摂取へ進む可能性がある。
- ウ：ベクレル Bq 。放射能と線量を混同しない。
- エ：シーベルト Sv 。実効線量は防護目的に用いる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「不均等被ばく測定」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「皮膚汚染と内部被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。放射能と線量を混同しない。
- エ：この内容は「実効線量単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「放射能単位」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。放射能と線量を混同しない。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q044

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：標準
学習テーマ「職業被ばく分類」の誤答分析で「自然放射線被ばくだけ」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。
- イ：まず検査の医学的利益を正当化し、その上で必要画質を保ちながら線量を最適化する。正当化と最適化の順序である。
- ウ：一般の職業・公衆被ばくのような線量限度を適用するのでなく、正当化と最適化を行う。患者医療被ばくでは正当化と最適化が中心である。
- エ：仕事として放射線源を扱うことに起因する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「被ばく区分と限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「正当化と最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「医療被ばくと限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。被ばく区分で管理方法が異なる。

総合解説：この問題では「職業被ばく分類」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。被ばく区分で管理方法が異なる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q045

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：標準
学習テーマ「患者被ばく分類」を扱う実習中の説明に「緊急時被ばくだけ」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：患者自身の診療目的の被ばくである。
- イ：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。
- ウ：各臓器・組織の等価線量に組織荷重係数を掛けて合計した防護量である。全身の確率的影響リスクを防護目的で代表する。
- エ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。患者医療被ばくでは正当化・最適化が中心となる。
- イ：この内容は「被ばく区分と限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「実効線量」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「DRL未満時の見直し」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「患者被ばく分類」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。患者医療被ばくでは正当化・最適化が中心となる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q046

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：標準
学習テーマ「公衆被ばく分類」で「治療被ばくだけ」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：仕事として放射線源を扱うことに起因する。
- イ：職業放射線業務でも医療目的でもないため公衆被ばくとして管理する。
- ウ：試料由来でない自然放射線や装置由来計数を補正して正味計数を求めるため。背景寄与を差し引く。
- エ：体格や検査目的に応じて条件を調整し、必要画質を保ちながら線量を低減する。体格適応型プロトコルが重要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「職業被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。施設遮蔽では公衆区域の管理が重要である。
- ウ：この内容は「バックグラウンド補正」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「小児最適化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「公衆被ばく分類」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。施設遮蔽では公衆区域の管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q047

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：標準
学習テーマ「等価線量」について次の誤ったメモをレビューする。「空間分解能を表す量である」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。
- イ：施設手順に従い、体幹線量と頭頸部・水晶体線量を適切に評価できる位置へ線量計を装着する。不均等被ばくでは複数部位の評価が必要となることがある。
- ウ：臓器・組織の吸収線量に放射線の種類による放射線加重係数を考慮した防護量である。放射線種の影響差を防護上反映する。
- エ：ベクレル Bq 。放射能と線量を混同しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「不均等被ばく測定」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。実効線量ではさらに組織荷重係数を用いる。
- エ：この内容は「放射能単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「等価線量」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。実効線量ではさらに組織荷重係数を用いる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q048

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：標準
学習テーマ「実効線量」の新人教育で「特定臓器の吸収線量そのもの」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。
- イ：職業放射線業務でも医療目的でもないため公衆被ばくとして管理する。
- ウ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。
- エ：各臓器・組織の等価線量に組織荷重係数を掛けて合計した防護量である。全身の確率的影響リスクを防護目的で代表する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「被ばく区分と限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「公衆被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。用途を正しく理解する。

総合解説：この問題では「実効線量」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。用途を正しく理解する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q049

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：応用
学習テーマ「実効線量の限界」で受験者が「臓器吸収線量は不要である」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：実効線量は防護的な指標であり、個別臓器リスク評価には臓器吸収線量なども考慮する。実効線量は個別臓器線量そのものではない。
- イ：測定器異常も確認しつつ、線源・装置・遮蔽・作業状況を調査し、必要なら区域を制限する。実環境と測定器の両方を確認する。
- ウ：作業場所の線量率や表面汚染などを目的に応じて測定する。区域管理等に用いる。
- エ：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。防護量の適用範囲を理解する。
- イ：この内容は「環境線量異常」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「サーベイメータ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「被ばく区分と限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「実効線量の限界」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。防護量の適用範囲を理解する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q050

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 医療・職業・公衆被ばくと防護量 難易度：応用
学習テーマ「被ばく区分と限度」で類似概念を整理する中、「職業被ばくでは最適化不要だから」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：作業場所の線量率や表面汚染などを目的に応じて測定する。区域管理等に用いる。
- イ：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。
- ウ：既存画像で臨床目的を満たせるか確認し、重複検査の必要性を再評価する。不要な重複回避は正当化に直結する。
- エ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「サーベイメータ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。カテゴリーごとの防護体系を適用する。
- ウ：この内容は「重複検査の正当化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「個人線量計」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「被ばく区分と限度」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。カテゴリーごとの防護体系を適用する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q051

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：基礎
学習テーマ「個人線量計」について、研修中の受験者が「核種半減期を変更する」と説明した。
この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：実効線量は防護的な指標であり、個別臓器リスク評価には臓器吸収線量なども考慮する。実効線量は個別臓器線量そのものではない。
- イ：職業放射線業務でも医療目的でもないため公衆被ばくとして管理する。
- ウ：個人の外部被ばく線量を評価し、線量管理と作業改善に用いる。個人モニタリングの目的である。
- エ：施設手順に従い、体幹線量と頭頸部・水晶体線量を適切に評価できる位置へ線量計を装着する。不均等被ばくでは複数部位の評価が必要となることがある。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「実効線量の限界」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「公衆被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。測定値を記録し作業改善へ活用する。
- エ：この内容は「不均等被ばく測定」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「個人線量計」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。測定値を記録し作業改善へ活用する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q052

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：基礎
学習テーマ「サーベイメータ」の勉強会資料に「画像MTFだけを測る」という記載があった。
この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：装着状況、業務内容、装置・防護具、線量計異常などを調査し、必要な改善を行う。限度未満でも異常増加は最適化上の重要なシグナルである。
- イ：臓器・組織の吸収線量に放射線の種類による放射線加重係数を考慮した防護量である。放射線種の影響差を防護上反映する。
- ウ：全身計測、甲状腺計測、排泄物のバイオアッセイなどを核種に応じて用いる。体内放射能や摂取量を評価する。
- エ：作業場所の線量率や表面汚染などを目的に応じて測定する。区域管理等に用いる。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「個人線量異常増加」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「等価線量」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「内部被ばく評価」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。対象放射線に適した測定器を選ぶ。

総合解説：この問題では「サーベイメータ」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。対象放射線に適した測定器を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q053

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：基礎
学習テーマ「表面汚染測定」の口頭試問で受験者が「目に見えなければ汚染なしとする」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なものはどれか。

- ア：適切な汚染サーベイメータや拭き取り試験を用いる。直接測定とスミア法を使い分ける。
イ：患者自身の診療目的の被ばくである。
ウ：各臓器・組織の等価線量に組織荷重係数を掛けて合計した防護量である。全身の確率的影響リスクを防護目的で代表する。
エ：標準的な検査の線量が不必要に高くないかを見直すための最適化ツールである。DRLは施設線量の見直しに用いる。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。非密封RIでは汚染モニタリングが重要である。
イ：この内容は「患者被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「実効線量」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「DRLの位置づけ」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「表面汚染測定」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。非密封RIでは汚染モニタリングが重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q054

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：標準
学習テーマ「不均等被ばく測定」の誤答分析で「線量計はエプロンのポケットなら位置不問」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：臓器・組織の吸収線量に放射線の種類による放射線加重係数を考慮した防護量である。放射線種の影響差を防護上反映する。
イ：施設手順に従い、体幹線量と頭頸部・水晶体線量を適切に評価できる位置へ線量計を装着する。不均等被ばくでは複数部位の評価が必要となることがある。
ウ：1 Gyは1 kgあたり1 Jのエネルギー吸収に相当する。
エ：検査や治療による期待利益が放射線による不利益を上回るように判断する。正当化の原則である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「等価線量」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。不均等被ばくに適した装着を行う。
ウ：この内容は「吸収線量単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「正当化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「不均等被ばく測定」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。不均等被ばくに適した装着を行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q055

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：標準
学習テーマ「内部被ばく評価」を扱う実習中の説明に「外部線量率計だけで全て正確に評価する」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：ベクレル Bq 。放射能と線量を混同しない。
- イ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。
- ウ：全身計測、甲状腺計測、排泄物のバイオアッセイなどを核種に応じて用いる。体内放射能や摂取量を評価する。
- エ：被ばくカテゴリーごとに防護目的・線量限度・正当化や最適化の適用方法が異なるため。数値だけでなく被ばく状況を確認する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「放射能単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「DRL未満時の見直し」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。核種の代謝・排泄も考慮する。
- エ：この内容は「被ばく区分と限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「内部被ばく評価」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。核種の代謝・排泄も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q056

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：標準
学習テーマ「バックグラウンド補正」で「試料放射能を増加させるため」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：測定値と基準量の関係を確認し、追跡可能で信頼できる測定を行うため。校正は測定精度の基礎である。
- イ：ベクレル Bq 。放射能と線量を混同しない。
- ウ：検査や治療による期待利益が放射線による不利益を上回るように判断する。正当化の原則である。
- エ：試料由来でない自然放射線や装置由来計数を補正して正味計数を求めるため。背景寄与を差し引く。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「測定器校正」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「放射能単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「正当化」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。低レベル測定では背景が重要である。

総合解説：この問題では「バックグラウンド補正」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。低レベル測定では背景が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q057

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：標準
学習テーマ「測定器校正」について次の誤ったメモをレビューする。「放射線を発生しない装置へ変えるため」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：測定値と基準量の関係を確認し、追跡可能で信頼できる測定を行うため。校正は測定精度の基礎である。
イ：職業放射線業務でも医療目的でもないため公衆被ばくとして管理する。
ウ：1 Gyは1 kgあたり1 Jのエネルギー吸収に相当する。
エ：DRLは患者個人の線量限度ではないため、その理由だけで違反とはいえず、臨床必要性和最適化の観点で原因を評価する。DRLは見直しのシグナルである。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。用途に応じ応答特性も考慮する。
イ：この内容は「公衆被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「吸収線量単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「DRLと法定限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「測定器校正」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。用途に応じ応答特性も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q058

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：標準
学習テーマ「環境線量異常」の新人教育で「測定器の電源を切れば安全とする」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：患者自身の診療目的の被ばくである。
イ：測定器異常も確認しつつ、線源・装置・遮蔽・作業状況を調査し、必要なら区域を制限する。実環境と測定器の両方を確認する。
ウ：シーベルト Sv 。実効線量は防護目的に用いる。
エ：DRL未満でも画質不足ならプロトコルを見直し、診断目的を満たす線量・画質へ最適化する。DRLを下回ること自体が目的ではない。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「患者被ばく分類」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。異常値は迅速に再確認する。
ウ：この内容は「実効線量単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「DRL未満時の見直し」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「環境線量異常」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。異常値は迅速に再確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q059

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：応用
学習テーマ「皮膚汚染と内部被ばく」で受験者が「汚染した手で飲食してから測定する」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：ベクレル Bq 。放射能と線量を混同しない。
- イ：プロトコル、装置設定、患者体格、画質などを調査し、正当な理由がなければ最適化する。DRL超過は見直しの契機である。
- ウ：汚染拡大を避けて手指を適切に除染し、口や顔へ触れず、必要に応じて摂取評価を行う。皮膚汚染から内部摂取へ進む可能性がある。
- エ：一般の職業・公衆被ばくのような線量限度を適用するのではなく、正当化と最適化を行う。患者医療被ばくでは正当化と最適化が中心である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「放射能単位」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「DRL超過対応」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。穏やかに除染し再測定する。
- エ：この内容は「医療被ばくと限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「皮膚汚染と内部被ばく」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。穏やかに除染し再測定する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q060

6-2 放射線防護・被ばく管理 / 個人線量・内部被ばく・環境測定 難易度：応用
学習テーマ「個人線量異常増加」で類似概念を整理する中、「限度未満なので原因調査は禁止する」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：測定値と基準量の関係を確認し、追跡可能で信頼できる測定を行うため。校正は測定精度の基礎である。
- イ：DRLは患者個人の線量限度ではないため、その理由だけで違反とはいえず、臨床必要性和最適化の観点で原因を評価する。DRLは見直しのシグナルである。
- ウ：汚染拡大を避けて手指を適切に除染し、口や顔へ触れず、必要に応じて摂取評価を行う。皮膚汚染から内部摂取へ進む可能性がある。
- エ：装着状況、業務内容、装置・防護具、線量計異常などを調査し、必要な改善を行う。限度未満でも異常増加は最適化上の重要なシグナルである。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「測定器校正」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「DRLと法定限度」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「皮膚汚染と内部被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。限度遵守だけでなく作業改善へ活用する。

総合解説：この問題では「個人線量異常増加」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。限度遵守だけでなく作業改善へ活用する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q061

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：基礎
学習テーマ「遮蔽設計因子」について、研修中の受験者が「モニタ画素数だけ」と説明した。
この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：線源の強さ・エネルギー、使用時間、距離、周辺区域の利用状況。遮蔽厚は線源条件と使用実態、周囲占有を基に決める。
- イ：高密度・高原子番号でX線を効率よく減弱できるため。光子遮蔽に有効である。
- ウ：分かっている事実、分からない点、健康影響の見込み、取るべき行動を平易な言葉で説明する。透明性と不確実性の明示が重要である。
- エ：線源の所在・数量・状態を確認し、紛失・盗難・誤使用を防止する。継続的なアカウントビリティが必要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。一次線・散乱線・漏えい線を装置特性に応じて考慮する。
- イ：この内容は「鉛遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「住民説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「線源在庫管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「遮蔽設計因子」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。一次線・散乱線・漏えい線を装置特性に応じて考慮する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q062

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：基礎
学習テーマ「X線室標識」の勉強会資料に「標識を外して一般室と区別しない」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア： unnecessary 立入りを止め、適切な測定器で区域を確認し、訓練された担当者が線源探索を行う。被ばく最小化と区域管理が前提である。
- イ：エックス線診療室であることを示す標識を設け、不要な立入りを防ぐ。法令上の構造設備基準の一つである。
- ウ：分かっている事実、分からない点、健康影響の見込み、取るべき行動を平易な言葉で説明する。透明性と不確実性の明示が重要である。
- エ：追加照射を止め、患者状態と実際の照射量を評価し、原因解析・報告・再発防止を組織的に行う。患者安全確保と事実確認を優先する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「線源紛失」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。構造と運用を組み合わせで防護する。
- ウ：この内容は「住民説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「過剰照射疑い」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「X線室標識」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。構造と運用を組み合わせで防護する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q063

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：基礎
学習テーマ「排気設備」の口頭試問で受験者が「排気で半減期を短くするため」と回答した。
理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

- ア：線源の所在・数量・状態を確認し、紛失・盗難・誤使用を防止する。継続的なアカウント
ビリティが必要である。
イ：高密度・高原子番号でX線を効率よく減弱できるため。光子遮蔽に有効である。
ウ：空气中放射性物質の拡散と吸入摂取を防ぎ、規制された条件で排気するため。空気汚染管
理が重要である。
エ：分かっている事実、分からない点、健康影響の見込み、取るべき行動を平易な言葉で説明
する。透明性と不確実性の明示が重要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「線源在庫管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「鉛遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。核種形態に応じてフード・排気系を管理する。
エ：この内容は「住民説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「排気設備」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。核種形態
に応じてフード・排気系を管理する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q064

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：標準
学習テーマ「鉛遮蔽」の誤答分析で「中性子だけを完全吸収するから」という理解が判明した。
復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：施設の緊急手順に従い、照射を停止して患者を可能な限り速やかに線源から離し、区域を
制限して専門担当者へ通報する。時間短縮・距離確保と迅速通報が重要である。
イ：生命を脅かす外傷の治療を優先し、同時に可能な範囲で汚染拡大防止を行う。汚染を理由
に救命を遅らせない。
ウ：表面汚染・空気汚染・内部摂取の防止。物質が拡散し得るためである。
エ：高密度・高原子番号でX線を効率よく減弱できるため。光子遮蔽に有効である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「密封線源停留事故」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「救命優先」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「非密封RI」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。鉛当量や継ぎ目・貫通部の処理も重要である。

総合解説：この問題では「鉛遮蔽」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。鉛当量や継
ぎ目・貫通部の処理も重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q065

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：標準
学習テーマ「中性子遮蔽」を扱う実習中の説明に「中性子は物質と相互作用しない」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：水素を多く含む材料で減速し、必要に応じて捕獲材を組み合わせる。高速中性子は水素との弾性散乱で減速しやすい。
イ：表面から拭き取れる遊離性の放射性汚染。一定面積を拭き取り計測する。
ウ：線源の強さ・エネルギー、使用時間、距離、周辺区域の利用状況。遮蔽厚は線源条件と使用実態、周囲占有を基に決める。
エ：表面汚染・空気汚染・内部摂取の防止。物質が拡散し得るためである。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。光子と中性子を装置エネルギーに応じて評価する。
イ：この内容は「スミア法」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「遮蔽設計因子」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「非密封RI」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「中性子遮蔽」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。光子と中性子を装置エネルギーに応じて評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q066

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：標準
学習テーマ「迷路構造」で「ビームエネルギーを増加させる」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：高密度・高原子番号でX線を効率よく減弱できるため。光子遮蔽に有効である。
イ：直接線や散乱線が出入口へ直進する経路を減らし、扉付近の線量を低減する。遮蔽扉への負担を減らす。
ウ：表面汚染・空気汚染・内部摂取の防止。物質が拡散し得るためである。
エ：エックス線診療室であることを示す標識を設け、不要な立入りを防ぐ。法令上の構造設備基準の一つである。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「鉛遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。ストリーミング経路や貫通部も評価する。
ウ：この内容は「非密封RI」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「迷路構造」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。ストリーミング経路や貫通部も評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q067

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：標準
学習テーマ「排水管理」について次の誤ったメモをレビューする。「どの核種でも直接一般排水へ流す」これに対する修正案として最も適切なものはどれか。

- ア：線源の所在・数量・状態を確認し、紛失・盗難・誤使用を防止する。継続的なアカウントビリティが必要である。
- イ：新装置の管電圧・線量、使用頻度、方向、隣接区域占有率等で再遮蔽評価し、必要なら補強する。ワークロード等が変われば再評価が必要である。
- ウ：放射性物質を含む排水を無管理で流さず、必要な貯留・測定・処理を法令・施設手順に従って行う。排水中放射性物質は管理が必要である。
- エ：汚染拡大を防ぎ、衣服除去や穏やかな洗浄を行い、再測定して効果を確認する。皮膚損傷を避けて除染する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「線源在庫管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「用途変更と遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。短半減期核種では減衰を利用した管理が可能な場合がある。
- エ：この内容は「皮膚除染」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「排水管理」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。短半減期核種では減衰を利用した管理が可能な場合がある。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q068

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：標準
学習テーマ「遮蔽受入確認」の新人教育で「照射中に一般人を室内へ入れて確認する」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：核種、物理・化学形、半減期、可燃性などに応じて分別し、識別・記録する。安全な保管・処理に必要である。
- イ：生命を脅かす外傷の治療を優先し、同時に可能な範囲で汚染拡大防止を行う。汚染を理由に救命を遅らせない。
- ウ：人命を優先しつつ、線源からの距離確保・区域制限・被ばく拡大防止を行い、責任者へ連絡する。生命救助と放射線防護を両立する。
- エ：実際の使用条件を考慮して周辺線量を測定し、設計・法令基準を満たすことを確認する。施工後の実測確認が重要である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「廃棄物分別」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「救命優先」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「事故初動」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。設計・施工・測定を一連のQAとして行う。

総合解説：この問題では「遮蔽受入確認」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。設計・施工・測定を一連のQAとして行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q069

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：応用
学習テーマ「排気異常」で受験者が「警報を止め通常通り作業する」を正しいと考えている。
正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：作業を中断し、汚染拡大を防いで区域を管理し、設備異常を確認・復旧してから再開する。排気機能喪失時は作業継続すべきでない。
- イ：実際の使用条件を考慮して周辺線量を測定し、設計・法令基準を満たすことを確認する。施工後の実測確認が重要である。
- ウ：エックス線診療室であることを示す標識を設け、不要な立入りを防ぐ。法令上の構造設備基準の一つである。
- エ：放射性物質が身体表面や体内に付着・取り込まれている状態である。外部被ばくとは異なる概念である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。停止条件と代替措置を事前に定める。
- イ：この内容は「遮蔽受入確認」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「汚染と被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「排気異常」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。停止条件と代替措置を事前に定める。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q070

6-3 施設・線源・事故管理 / 遮蔽・構造設備・排気排水 難易度：応用
学習テーマ「用途変更と遮蔽」で類似概念を整理する中、「X線を使う点は同じなので再評価不要である」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：直接線や散乱線が出入口へ直進する経路を減らし、扉付近の線量を低減する。遮蔽扉への負担を減らす。
- イ：新装置の管電圧・線量、使用頻度、方向、隣接区域占有率等で再遮蔽評価し、必要なら補強する。ワークロード等が変われば再評価が必要である。
- ウ：水素を多く含む材料で減速し、必要に応じて捕獲材を組み合わせる。高速中性子は水素との弾性散乱で減速しやすい。
- エ：放射性物質が身体表面や体内に付着・取り込まれている状態である。外部被ばくとは異なる概念である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「迷路構造」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。施設変更時は法令届出と遮蔽評価を確認する。
- ウ：この内容は「中性子遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「汚染と被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「用途変更と遮蔽」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。施設変更時は法令届出と遮蔽評価を確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q071

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：基礎

学習テーマ「密封線源」について、研修中の受験者が「管理や在庫確認が不要である」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：核種、物理・化学形、半減期、可燃性などに応じて分別し、識別・記録する。安全な保管・処理に必要である。
- イ：追加照射を止め、患者状態と実際の照射量を評価し、原因解析・報告・再発防止を組織的に行う。患者安全確保と事実確認を優先する。
- ウ：通常の使用条件で放射性物質が外部へ漏れ出さないようカプセル等に封入された線源である。密封構造を持つ。
- エ：一般廃棄物として搬出せず管理区域へ戻し、核種・汚染源を特定して適切に分別・記録する。施設外流出を防ぎ原因を確認する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「廃棄物分別」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「過剰照射疑い」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。外部被ばくと紛失・破損管理が重要である。
- エ：この内容は「一般ごみへの誤混入」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「密封線源」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。外部被ばくと紛失・破損管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q072

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：基礎

学習テーマ「非密封RI」の勉強会資料に「放射線が外部へ全く出ないことの確認」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：立入を制限し、汚染範囲を広げないよう封じ込め、施設手順に従って除染・測定する。汚染拡大防止が優先される。
- イ：作業を中断し、汚染拡大を防いで区域を管理し、設備異常を確認・復旧してから再開する。排気機能喪失時は作業継続すべきでない。
- ウ：エックス線診療室であることを示す標識を設け、不要な立入りを防ぐ。法令上の構造設備基準の一つである。
- エ：表面汚染・空気汚染・内部摂取の防止。物質が拡散し得るためである。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「RI spill初動」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「排気異常」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。保護具・汚染測定・排気排水を組み合わせる。

総合解説：この問題では「非密封RI」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。保護具・汚染測定・排気排水を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q073

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：基礎
学習テーマ「廃棄物分別」の口頭試問で受験者が「半減期や核種を記録しない」と回答した。
理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

- ア：核種、物理・化学形、半減期、可燃性などに応じて分別し、識別・記録する。安全な保管・処理に必要である。
- イ：実際の使用条件を考慮して周辺線量を測定し、設計・法令基準を満たすことを確認する。施工後の実測確認が重要である。
- ウ：暫定値であること、評価方法と不確実性、更新予定を明示して現時点の防護行動を伝える。不確実性を隠さず更新可能な情報として伝える。
- エ：汚染拡大を防ぎ、衣服除去や穏やかな洗浄を行い、再測定して効果を確認する。皮膚損傷を避けて除染する。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。発生段階からライフサイクル管理する。
- イ：この内容は「遮蔽受入確認」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「不確実性説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「皮膚除染」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「廃棄物分別」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。発生段階からライフサイクル管理する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q074

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：標準
学習テーマ「密封線源漏えい」の誤答分析で「通常通り患者に使用する」という理解が判明した。
復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：暫定値であること、評価方法と不確実性、更新予定を明示して現時点の防護行動を伝える。不確実性を隠さず更新可能な情報として伝える。
- イ：線源を不用意に扱わず区域を管理し、施設手順に従って漏えい・汚染評価を行う。破損時は汚染源となり得る。
- ウ：核種、物理・化学形、半減期、可燃性などに応じて分別し、識別・記録する。安全な保管・処理に必要である。
- エ：水素を多く含む材料で減速し、必要に応じて捕獲材を組み合わせる。高速中性子は水素との弾性散乱で減速しやすい。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「不確実性説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。封じ込め機能の確認が重要である。
- ウ：この内容は「廃棄物分別」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「中性子遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「密封線源漏えい」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。封じ込め機能の確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q075

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：標準
学習テーマ「スミア法」を扱う実習中の説明に「固定汚染を100%直接測定する」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：施設の緊急手順に従い、照射を停止して患者を可能な限り速やかに線源から離し、区域を制限して専門担当者へ通報する。時間短縮・距離確保と迅速通報が重要である。
- イ：法令・契約・施設手順に従い、安全に保管し、許可された返却・譲渡・廃棄経路で処理する。不要線源も規制対象である。
- ウ：表面から拭き取れる遊離性の放射性汚染。一定面積を拭き取り計測する。
- エ：不必要な立入りを止め、適切な測定器で区域を確認し、訓練された担当者が線源探索を行う。被ばく最小化と区域管理が前提である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「密封線源停留事故」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「不要密封線源」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。拭き取り効率を考慮する場合がある。
- エ：この内容は「線源紛失」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「スミア法」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。拭き取り効率を考慮する場合がある。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q076

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：標準
学習テーマ「減衰保管」で「測定せず推測だけで廃棄する」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：作業を中断し、汚染拡大を防いで区域を管理し、設備異常を確認・復旧してから再開する。排気機能喪失時は作業継続すべきでない。
- イ：生命を脅かす外傷の治療を優先し、同時に可能な範囲で汚染拡大防止を行う。汚染を理由に救命を遅らせない。
- ウ：水素を多く含む材料で減速し、必要に応じて捕獲材を組み合わせる。高速中性子は水素との弾性散乱で減速しやすい。
- エ：法令・施設手順で認められる範囲で安全に保管し、十分な減衰と測定確認後に適切な処理を行う。短半減期では減衰を利用できる場合がある。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「排気異常」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「救命優先」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「中性子遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。核種・保管期間・測定結果を記録する。

総合解説：この問題では「減衰保管」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。核種・保管期間・測定結果を記録する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q077

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：標準
学習テーマ「線源在庫管理」について次の誤ったメモをレビューする。「患者画像を自動保存する」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

ア：線源の所在・数量・状態を確認し、紛失・盗難・誤使用を防止する。継続的なアカウント
ビリティが必要である。
イ：エックス線診療室であることを示す標識を設け、不要な立入りを防ぐ。法令上の構造設備
基準の一つである。
ウ：放射性物質を含む排水を無管理で流さず、必要な貯留・測定・処理を法令・施設手順に従っ
て行う。排水中放射性物質は管理が必要である。
エ：法令・契約・施設手順に従い、安全に保管し、許可された返却・譲渡・廃棄経路で処理す
る。不要線源も規制対象である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。線源管理は安全とセキュリティの双方を含む。
イ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「排水管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「不要密封線源」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「線源在庫管理」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。線源管理は安全とセキュリティの双方を含む。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q078

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：標準
学習テーマ「RI spill初動」の新人教育で「送風機で乾燥させる」という理解が示された。事故
や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

ア：分かっている事実、分からない点、健康影響の見込み、取るべき行動を平易な言葉で説明
する。透明性と不確実性の明示が重要である。
イ：立入を制限し、汚染範囲を広げないよう封じ込め、施設手順に従って除染・測定する。汚
染拡大防止が優先される。
ウ：核種、物理・化学形、半減期、可燃性などに応じて分別し、識別・記録する。安全な保管・
処理に必要である。
エ：放射性物質を含む排水を無管理で流さず、必要な貯留・測定・処理を法令・施設手順に従っ
て行う。排水中放射性物質は管理が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「住民説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。人・区域・物品を系統的に評価する。
ウ：この内容は「廃棄物分別」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「排水管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「RI spill初動」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。人・区域・物品を系統的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q079

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：応用
学習テーマ「一般ごみへの誤混入」で受験者が「警報を無視して搬出する」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：線源を不用意に扱わず区域を管理し、施設手順に従って漏えい・汚染評価を行う。破損時は汚染源となり得る。
- イ：暫定値であること、評価方法と不確実性、更新予定を明示して現時点の防護行動を伝える。不確実性を隠さず更新可能な情報として伝える。
- ウ：一般廃棄物として搬出せず管理区域へ戻し、核種・汚染源を特定して適切に分別・記録する。施設外流出を防ぎ原因を確認する。
- エ：新装置の管電圧・線量、使用頻度、方向、隣接区域占有率等で再遮蔽評価し、必要なら補強する。ワークロード等が変われば再評価が必要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「密封線源漏えい」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「不確実性説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。廃棄前確認と分別教育が重要である。
- エ：この内容は「用途変更と遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「一般ごみへの誤混入」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正することが重要である。廃棄前確認と分別教育が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q080

6-3 施設・線源・事故管理 / 密封 / 非密封線源・汚染・廃棄物 難易度：応用
学習テーマ「不要密封線源」で類似概念を整理する中、「容器を分解して中身を確認する」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：分かっている事実、分からない点、健康影響の見込み、取るべき行動を平易な言葉で説明する。透明性と不確実性の明示が重要である。
- イ：放射性物質が身体表面や体内に付着・取り込まれている状態である。外部被ばくとは異なる概念である。
- ウ：施設の緊急手順に従い、照射を停止して患者を可能な限り速やかに線源から離し、区域を制限して専門担当者へ通報する。時間短縮・距離確保と迅速通報が重要である。
- エ：法令・契約・施設手順に従い、安全に保管し、許可された返却・譲渡・廃棄経路で処理する。不要線源も規制対象である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「住民説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「汚染と被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「密封線源停留事故」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。導入から廃止まで一貫管理する。

総合解説：この問題では「不要密封線源」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正することが重要である。導入から廃止まで一貫管理する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q081

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：基礎

学習テーマ「事故初動」について、研修中の受験者が「原因確認まで負傷者救助を一切行わない」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

ア：人命を優先しつつ、線源からの距離確保・区域制限・被ばく拡大防止を行い、責任者へ連絡する。生命救助と放射線防護を両立する。

イ：放射性物質を含む排水を無管理で流さず、必要な貯留・測定・処理を法令・施設手順に従って行う。排水中放射性物質は管理が必要である。

ウ：放射性物質が身体表面や体内に付着・取り込まれている状態である。外部被ばくとは異なる概念である。

エ：表面から拭き取れる遊離性の放射性汚染。一定面積を拭き取り計測する。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。停止・退避・区域管理・通報を迅速に行う。

イ：この内容は「排水管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

ウ：この内容は「汚染と被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この内容は「スミア法」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「事故初動」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。停止・退避・区域管理・通報を迅速に行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q082

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：基礎

学習テーマ「汚染と被ばく」の勉強会資料に「放射線を浴びた事実だけで必ず汚染している」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

ア：生命を脅かす外傷の治療を優先し、同時に可能な範囲で汚染拡大防止を行う。汚染を理由に救命を遅らせない。

イ：放射性物質が身体表面や体内に付着・取り込まれている状態である。外部被ばくとは異なる概念である。

ウ：核種、物理・化学形、半減期、可燃性などに応じて分別し、識別・記録する。安全な保管・処理に必要である。

エ：高密度・高原子番号でX線を効率よく減弱できるため。光子遮蔽に有効である。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「救命優先」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。被ばくと汚染を区別して対処する。

ウ：この内容は「廃棄物分別」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この内容は「鉛遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「汚染と被ばく」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。被ばくと汚染を区別して対処する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q083

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：基礎

学習テーマ「皮膚除染」の口頭試問で受験者が「再測定を行わない」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なものはどれか。

- ア：表面汚染・空気汚染・内部摂取の防止。物質が拡散し得るためである。
- イ：放射性物質を含む排水を無管理で流さず、必要な貯留・測定・処理を法令・施設手順に従って行う。排水中放射性物質は管理が必要である。
- ウ：汚染拡大を防ぎ、衣服除去や穏やかな洗浄を行い、再測定して効果を確認する。皮膚損傷を避けて除染する。
- エ：立入を制限し、汚染範囲を広げないよう封じ込め、施設手順に従って除染・測定する。汚染拡大防止が優先される。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「非密封RI」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「排水管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。衣服除去だけでも大きく低減できる場合がある。
- エ：この内容は「RI spill初動」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「皮膚除染」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。衣服除去だけでも大きく低減できる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q084

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：標準

学習テーマ「線源紛失」の誤答分析で「警報器を停止して問題なしとする」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：汚染拡大を防ぎ、衣服除去や穏やかな洗浄を行い、再測定して効果を確認する。皮膚損傷を避けて除染する。
- イ：放射性物質を含む排水を無管理で流さず、必要な貯留・測定・処理を法令・施設手順に従って行う。排水中放射性物質は管理が必要である。
- ウ：表面から拭き取れる遊離性の放射性汚染。一定面積を拭き取り計測する。
- エ： unnecessary 立入りを止め、適切な測定器で区域を確認し、訓練された担当者が線源探索を行う。被ばく最小化と区域管理が前提である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「皮膚除染」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「排水管理」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「スミア法」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。報告要件も施設手順で確認する。

総合解説：この問題では「線源紛失」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。報告要件も施設手順で確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q085

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：標準

学習テーマ「過剰照射疑い」を扱う実習中の説明に「記録を修正して事故をなかったことにする」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：追加照射を止め、患者状態と実際の照射量を評価し、原因解析・報告・再発防止を組織的に行う。患者安全確保と事実確認を優先する。
- イ：新装置の管電圧・線量、使用頻度、方向、隣接区域占有率等で再遮蔽評価し、必要なら補強する。ワークロード等が変われば再評価が必要である。
- ウ：汚染拡大を防ぎ、衣服除去や穏やかな洗浄を行い、再測定して効果を確認する。皮膚損傷を避けて除染する。
- エ：高密度・高原子番号でX線を効率よく減弱できるため。光子遮蔽に有効である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。システム要因を含めて分析する。
- イ：この内容は「用途変更と遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「皮膚除染」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「鉛遮蔽」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「過剰照射疑い」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。システム要因を含めて分析する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q086

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：標準

学習テーマ「救命優先」で「汚染患者を医療機関へ入れない」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：暫定値であること、評価方法と不確実性、更新予定を明示して現時点の防護行動を伝える。不確実性を隠さず更新可能な情報として伝える。
- イ：生命を脅かす外傷の治療を優先し、同時に可能な範囲で汚染拡大防止を行う。汚染を理由に救命を遅らせない。
- ウ：エックス線診療室であることを示す標識を設け、不要な立入りを防ぐ。法令上の構造設備基準の一つである。
- エ：放射性物質が身体表面や体内に付着・取り込まれている状態である。外部被ばくとは異なる概念である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「不確実性説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。標準予防策と放射線防護を併用する。
- ウ：この内容は「X線室標識」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「汚染と被ばく」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「救命優先」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。標準予防策と放射線防護を併用する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q087

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：標準

学習テーマ「住民説明」について次の誤ったメモをレビューする。「不確実でも全て安全と言いつける」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：暫定値であること、評価方法と不確実性、更新予定を明示して現時点の防護行動を伝える。不確実性を隠さず更新可能な情報として伝える。
- イ：実際の使用条件を考慮して周辺線量を測定し、設計・法令基準を満たすことを確認する。施工後の実測確認が重要である。
- ウ：分かっている事実、分からない点、健康影響の見込み、取るべき行動を平易な言葉で説明する。透明性と不確実性の明示が重要である。
- エ：法令・施設手順で認められる範囲で安全に保管し、十分な減衰と測定確認後に適切な処理を行う。短半減期では減衰を利用できる場合がある。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「不確実性説明」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「遮蔽受入確認」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。数値は文脈と行動指針を添えて説明する。
- エ：この内容は「減衰保管」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「住民説明」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。数値は文脈と行動指針を添えて説明する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q088

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：標準

学習テーマ「不確実性説明」の新人教育で「最悪推定値を確定値として断言する」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：空气中放射性物質の拡散と吸入摂取を防ぎ、規制された条件で排気するため。空気汚染管理が重要である。
- イ：法令・契約・施設手順に従い、安全に保管し、許可された返却・譲渡・廃棄経路で処理する。不要線源も規制対象である。
- ウ：実際の使用条件を考慮して周辺線量を測定し、設計・法令基準を満たすことを確認する。施工後の実測確認が重要である。
- エ：暫定値であること、評価方法と不確実性、更新予定を明示して現時点の防護行動を伝える。不確実性を隠さず更新可能な情報として伝える。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「排気設備」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「不要密封線源」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「遮蔽受入確認」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。情報は時系列で更新し根拠と限界を示す。

総合解説：この問題では「不確実性説明」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。情報は時系列で更新し根拠と限界を示す。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q089

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：応用

学習テーマ「密封線源停留事故」で受験者が「患者を室内に残し通常治療を続ける」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なものはどれか。

- ア：施設の緊急手順に従い、照射を停止して患者を可能な限り速やかに線源から離し、区域を制限して専門担当者へ通報する。時間短縮・距離確保と迅速通報が重要である。
- イ：不十分であり、人的要因に加えて手順、装置設計、教育、組織体制などシステム要因を分析する。再発防止には根本原因分析が必要である。
- ウ：空气中放射性物質の拡散と吸入摂取を防ぎ、規制された条件で排気するため。空気汚染管理が重要である。
- エ：汚染拡大を防ぎ、衣服除去や穏やかな洗浄を行い、再測定して効果を確認する。皮膚損傷を避けて除染する。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。事前訓練された手順を迅速に実行する。
- イ：この内容は「根本原因分析」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「排気設備」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「皮膚除染」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「密封線源停留事故」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。事前訓練された手順を迅速に実行する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q090

6-3 施設・線源・事故管理 / 放射線事故・緊急被ばく医療・リスクコミュニケーション 難易度：応用

学習テーマ「根本原因分析」で類似概念を整理する中、「事故記録は再発防止に不要である」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：空气中放射性物質の拡散と吸入摂取を防ぎ、規制された条件で排気するため。空気汚染管理が重要である。
- イ：不十分であり、人的要因に加えて手順、装置設計、教育、組織体制などシステム要因を分析する。再発防止には根本原因分析が必要である。
- ウ： unnecessary 立入りを止め、適切な測定器で区域を確認し、訓練された担当者が線源探索を行う。被ばく最小化と区域管理が前提である。
- エ：実際の使用条件を考慮して周辺線量を測定し、設計・法令基準を満たすことを確認する。施工後の実測確認が重要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「排気設備」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。個人責任追及だけでなくシステム弱点を改善する。
- ウ：この内容は「線源紛失」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「遮蔽受入確認」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「根本原因分析」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。個人責任追及だけでなくシステム弱点を改善する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q091

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：基礎
学習テーマ「インシデントの概念を説明できる」について、研修中の受験者が「患者死亡に至った事例だけを指す」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：性能変化や故障履歴を追跡し、適切な保守計画や安全な使用判断に活用できる。保守点検の状況・修理歴等の記録は安全管理に利用する。
- イ：患者ごとに適切な単回使用器材を使用し、使用済み鋭利物は直ちに専用容器へ廃棄する。安全な注射実践と鋭利物管理は標準予防策に含まれる。
- ウ：患者に重大な被害は生じなかったものの、事故につながる可能性があった事例も含めて安全改善の対象とする。インシデントは、結果的に大きな被害がなくても再発防止のために分析する価値がある。
- エ：患者、薬剤、核種、放射能、投与経路、投与時刻などを照合する。放射性医薬品は薬剤安全と放射線安全の両面で確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：この内容は「保守点検記録の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

- イ：この内容は「安全な注射器具の使用を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。ヒヤリ・ハットを含む事例を収集し、事故の芽を早期に把握することが重要である。
- エ：この内容は「放射性医薬品の安全管理を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「インシデントの概念を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。ヒヤリ・ハットを含む事例を収集し、事故の芽を早期に把握することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q092

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：基礎
学習テーマ「ヒューマンエラーの背景要因を説明できる」の勉強会資料に「注意力の高い職員だけ配置すれば事故は防げる」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：急変時に必要な酸素、薬剤、気道器具、除細動器等を直ちに使用できる状態に保つため。緊急対応は器材の所在・期限・作動確認を含む事前準備が重要である。
- イ：予想される血液・体液への曝露や感染経路に応じて手袋、ガウン、マスク、眼防護具などを選ぶ。PPEは患者との接触内容と曝露リスクに応じて選択する。
- ウ：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- エ：個人の注意力だけに依存せず、手順、環境、表示、情報伝達などシステム側の要因も改善する。医療安全では人は誤る可能性があることを前提に、多層的な対策を設計する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「救急カート点検の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「PPE選択の原則を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。安全対策は個人教育だけでなく、誤りが事故へ進みにくい仕組みづくりを含む。

総合解説：この問題では「ヒューマンエラーの背景要因を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。安全対策は個人教育だけでなく、誤りが事故へ進みにくい仕組みづくりを含む。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q093

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：基礎
学習テーマ「患者確認の基本を説明できる」の口頭試問で受験者が「同姓同名でも追加確認を行わない」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

ア：氏名や生年月日など複数の識別情報を用い、検査指示と患者本人を照合する。誤患者・誤検査防止には複数識別子による確認が有効である。
イ：手指衛生を行う。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。
ウ：静脈路、接続、カテーテル、設定、装置状態を確認して原因を特定し、適正な範囲で運用する。安全警報は異常を知らせる防護機能であり、理由なく無効化・緩和してはならない。
エ：患者、薬剤、核種、放射能、投与経路、投与時刻などを照合する。放射性医薬品は薬剤安全と放射線安全の両面で確認する。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。検査開始前に患者・部位・検査内容を一致させる。
イ：この内容は「手指衛生の基本を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「装置警報を含む安全使用を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「放射性医薬品の安全管理を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「患者確認の基本を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。検査開始前に患者・部位・検査内容を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q094

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：標準
学習テーマ「インシデント報告の目的を説明できる」の誤答分析で「事故件数を少なく見せるため報告を抑制すること」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

ア：患者、薬剤、核種、放射能、投与経路、投与時刻などを照合する。放射性医薬品は薬剤安全と放射線安全の両面で確認する。
イ：事例を共有・分析し、再発防止策やシステム改善につなげる。報告は個人処罰だけを目的とするものではなく、組織学習のために用いる。
ウ：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いICPR、早期除細動が重要である。
エ：手指衛生を行う。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「放射性医薬品の安全管理を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。報告しやすい環境は潜在的リスクの把握に重要である。
ウ：この内容は「心停止時のBLSを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「手指衛生の基本を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「インシデント報告の目的を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。報告しやすい環境は潜在的リスクの把握に重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q095

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：標準
学習テーマ「ダブルチェックの限界を説明できる」を扱う実習中の説明に「ダブルチェックを行えば患者確認は不要である」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なものはどれか。

- ア：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いICPR、早期除細動が重要である。
- イ：感染症の診断の有無にかかわらず、すべての患者の血液・体液等に感染性があり得ると考えて適用する。標準予防策は全患者に適用する基本的感染対策である。
- ウ：独立して確認する仕組みは有用だが、形骸化すると同じ見落としを共有するため手順設計も重要である。ダブルチェックは万能ではなく、確認方法の独立性や対象を明確にする必要がある。
- エ：アレルギー様反応と生理的反応に分けて評価する。ACRでは急性反応をallergic-likeとphysiologicに分類している。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「心停止時のBLSを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「標準予防策を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。高リスク工程では標準化、独立確認、バーコード等を組み合わせる。
- エ：この内容は「造影剤急性反応の分類を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「ダブルチェックの限界を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。高リスク工程では標準化、独立確認、バーコード等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q096

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：標準
学習テーマ「RCAの目的を説明できる」で「原因調査を行わず結果だけ記録する」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：報告件数減少だけでは安全向上と判断できず、報告抑制が起きていないか確認し、学習につながる報告文化を整える。安全文化では件数の少なさより、リスクを適切に把握し改善できることが重要である。
- イ：事例を共有・分析し、再発防止策やシステム改善につなげる。報告は個人処罰だけを目的とするものではなく、組織学習のために用いる。
- ウ：既往反応は再反応リスク評価に重要であり、代替検査や造影剤選択、前投薬等を医師と検討する。同系統造影剤への既往反応は重要なリスク因子である。
- エ：表面的な個人ミスだけでなく、事故を生じさせた潜在的なシステム要因を特定して改善する。RCAは再発防止を目的に原因の連鎖を分析する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「安全文化と報告制度を統合して判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「インシデント報告の目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「造影剤既往歴の意味を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。設備、手順、教育、情報伝達、組織体制などを横断的に確認する。

総合解説：この問題では「RCAの目的を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。設備、手順、教育、情報伝達、組織体制などを横断的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q097

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：標準
学習テーマ「FMEAの位置づけを説明できる」について次の誤ったメモをレビューする。「画像の空間分解能を測定する手法である」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

ア：事故が起こる前に工程の故障モードや影響を洗い出し、優先順位をつけて対策する。FMEAは予防的なリスク分析手法である。
イ：放射性物質による汚染防止にも配慮しつつ、患者の救命処置を最優先して通常の救急対応を行う。放射性医薬品投与後であっても生命救助を遅らせない。
ウ：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いCPR、早期除細動が重要である。
エ：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。新しい業務や装置導入時のリスク洗い出しに有用である。
イ：この内容は「核医学薬剤と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「心停止時のBLSを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「FMEAの位置づけを説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。新しい業務や装置導入時のリスク洗い出しに有用である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q098

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：標準
学習テーマ「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」の新人教育で「聞き取れない部分は推測で補う」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

ア：既往反応は再反応リスク評価に重要であり、代替検査や造影剤選択、前投薬等を医師と検討する。同系造影剤への既往反応は重要なリスク因子である。
イ：重要事項を復唱し、患者・部位・造影の有無などを確認して記録へ反映する。口頭指示ではread-backによる相互確認が有効である。
ウ：放射性物質による汚染防止にも配慮しつつ、患者の救命処置を最優先して通常の救急対応を行う。放射性医薬品投与後であっても生命救助を遅らせない。
エ：従業者への安全使用研修、保守点検計画の策定・実施確認、安全情報収集と改善を行う。医療法施行規則に基づく主要業務である。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「造影剤既往歴の意味を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。緊急時ほど短く明確な情報伝達と相互確認が重要である。
ウ：この内容は「核医学薬剤と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「医療機器安全管理責任者の業務を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。緊急時ほど短く明確な情報伝達と相互確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q099

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：応用
学習テーマ「複数エラーの連鎖を分析できる」で受験者が「最後に操作した技師だけを処分し、工程は変えない」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：放射性物質による汚染防止にも配慮しつつ、患者の救命処置を最優先して通常の救急対応を行う。放射性医薬品投与後であっても生命救助を遅らせない。
イ：事故が起こる前に工程の故障モードや影響を洗い出し、優先順位をつけて対策する。FMEAは予防的なリスク分析手法である。
ウ：複数の防護層が同時に破綻したと捉え、受付・ワークリスト・ベッドサイド確認をそれぞれ改善する。事故は一つのミスだけでなく複数の防御層の破綻で起こることがある。
エ：使用部位や汚染リスクに応じ、メーカー推奨と施設手順に従って適切に清掃・消毒する。患者間で使用する機器は感染伝播を防ぐため適切に処理する必要がある。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「核医学薬剤と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「FMEAの位置づけを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。患者識別は複数段階で独立して確認する仕組みが有効である。
エ：この内容は「画像診断装置の患者接触部の清拭を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「複数エラーの連鎖を分析できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。患者識別は複数段階で独立して確認する仕組みが有効である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q100

6-4 医療安全 / ヒューマンエラー・インシデント・リスク管理 難易度：応用
学習テーマ「安全文化と報告制度を統合して判断できる」で類似概念を整理する中、「報告が0件なら必ず最も安全である」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：予想される血液・体液への曝露や感染経路に応じて手袋、ガウン、マスク、眼防護具などを選ぶ。PPEは患者との接触内容と曝露リスクに応じて選択する。
イ：造影検査を中止し、心停止として緊急対応を要請して直ちに高品質CPRを開始し、除細動器を準備する。原因検索より先に心停止の標準蘇生を開始する。
ウ：接触した装置表面を施設手順に従って清掃・消毒し、PPEを適切に外して手指衛生を行ってから次へ移動する。可搬型装置は患者間を移動するため環境表面を介した感染伝播対策が重要である。
エ：報告件数減少だけでは安全向上と判断できず、報告抑制が起きていないか確認し、学習につながる報告文化を整える。安全文化では件数の少なさより、リスクを適切に把握し改善できることが重要である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「PPE選択の原則を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「造影反応と心停止対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「感染対策と機器安全を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。報告の質と改善行動を評価することが重要である。

総合解説：この問題では「安全文化と報告制度を統合して判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。報告の質と改善行動を評価することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q101

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：基礎
学習テーマ「標準予防策を説明できる」について、研修中の受験者が「感染症と診断された患者にだけ適用する」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：感染症の診断の有無にかかわらず、すべての患者の血液・体液等に感染性があり得ると考えて適用する。標準予防策は全患者に適用する基本的感染対策である。
- イ：報告件数減少だけでは安全向上と判断できず、報告抑制が起きていないか確認し、学習につながる報告文化を整える。安全文化では件数の少なさより、リスクを適切に把握し改善できることが重要である。
- ウ：使用部位や汚染リスクに応じ、メーカー推奨と施設手順に従って適切に清掃・消毒する。患者間で使用する機器は感染伝播を防ぐため適切に処理する必要がある。
- エ：重度の急性造影剤反応を疑い、投与を中止して救急対応を要請し、気道・呼吸・循環を評価する。生命を脅かす反応では迅速な蘇生対応が必要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。手指衛生、PPE、安全な注射、器具の適切な処理などを含む。
- イ：この内容は「安全文化と報告制度を統合して判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「画像診断装置の患者接触部の清拭を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「重度造影剤反応を認識できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「標準予防策を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。手指衛生、PPE、安全な注射、器具の適切な処理などを含む。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q102

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：基礎
学習テーマ「手指衛生の基本を説明できる」の勉強会資料に「手袋をしていたので何もしない」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：放射性物質による汚染防止にも配慮しつつ、患者の救命処置を最優先して通常の救急対応を行う。放射性医薬品投与後であっても生命救助を遅らせない。
- イ：手指衛生を行う。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。
- ウ：個人の注意力だけに依存せず、手順、環境、表示、情報伝達などシステム側の要因も改善する。医療安全では人は誤る可能性があることを前提に、多層的な対策を設計する。
- エ：造影検査を中止し、心停止として緊急対応を要請して直ちに高品質CPRを開始し、除細動器を準備する。原因検索より先に心停止の標準蘇生を開始する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「核医学薬剤と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。
- ウ：この内容は「ヒューマンエラーの背景要因を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「造影反応と心停止対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「手指衛生の基本を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q103

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：基礎

学習テーマ「PPE選択の原則を説明できる」の口頭試問で受験者が「感染対策では眼防護具を使用してはならない」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なものはどれか。

- ア：報告件数減少だけでは安全向上と判断できず、報告抑制が起きていないか確認し、学習につながる報告文化を整える。安全文化では件数の少なさより、リスクを適切に把握し改善できることが重要である。
- イ：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いCPR、早期除細動が重要である。
- ウ：予想される血液・体液への曝露や感染経路に応じて手袋、ガウン、マスク、眼防護具などを選ぶ。PPEは患者との接触内容と曝露リスクに応じて選択する。
- エ：手指衛生を行う。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「安全文化と報告制度を統合して判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「心停止時のBLSを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。過不足なく適切なPPEを選択し、正しい着脱を行う。
- エ：この内容は「手指衛生の基本を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「PPE選択の原則を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。過不足なく適切なPPEを選択し、正しい着脱を行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q104

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：標準

学習テーマ「画像診断装置の患者接触部の清拭を判断できる」の誤答分析で「目に見える汚れがなければ常に処理不要である」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- イ：氏名や生年月日など複数の識別情報を用い、検査指示と患者本人を照合する。誤患者・誤検査防止には複数識別子による確認が有効である。
- ウ：造影検査を中止し、心停止として緊急対応を要請して直ちに高品質CPRを開始し、除細動器を準備する。原因検索より先に心停止の標準蘇生を開始する。
- エ：使用部位や汚染リスクに応じ、メーカー推奨と施設手順に従って適切に清掃・消毒する。患者間で使用する機器は感染伝播を防ぐため適切に処理する必要がある。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「患者確認の基本を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「造影反応と心停止対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。再使用器具は用途・接触部位・メーカー指示に沿って処理する。

総合解説：この問題では「画像診断装置の患者接触部の清拭を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。再使用器具は用途・接触部位・メーカー指示に沿って処理する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q105

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：標準
学習テーマ「安全な注射器具の使用を説明できる」を扱う実習中の説明に「使用済み針に両手でキャップを戻す」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：患者ごとに適切な単回使用器材を使用し、使用済み鋭利物は直ちに専用容器へ廃棄する。安全な注射実践と鋭利物管理は標準予防策に含まれる。
- イ：感染症の診断の有無にかかわらず、すべての患者の血液・体液等に感染性があり得ると考えて適用する。標準予防策は全患者に適用する基本的感染対策である。
- ウ：従業者への安全使用研修、保守点検計画の策定・実施確認、安全情報収集と改善を行う。医療法施行規則に基づく主要業務である。
- エ：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いCPR、早期除細動が重要である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。単回使用と鋭利物廃棄の原則を守る。
- イ：この内容は「標準予防策を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「医療機器安全管理責任者の業務を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「心停止時のBLSを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「安全な注射器具の使用を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正することが重要である。単回使用と鋭利物廃棄の原則を守る。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q106

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：標準
学習テーマ「医療機器安全管理責任者の業務を説明できる」で「保守点検計画は作成しない」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：事故が起こる前に工程の故障モードや影響を洗い出し、優先順位をつけて対策する。FMEAは予防的ナリスク分析手法である。
- イ：従業者への安全使用研修、保守点検計画の策定・実施確認、安全情報収集と改善を行う。医療法施行規則に基づく主要業務である。
- ウ：独立して確認する仕組みは有用だが、形骸化すると同じ見落としを共有するため手順設計も重要である。ダブルチェックは万能ではなく、確認方法の独立性や対象を明確にする必要がある。
- エ：事例を共有・分析し、再発防止策やシステム改善につなげる。報告は個人処罰だけを目的とするものではなく、組織学習のために用いる。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「FMEAの位置づけを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。責任者は機器の安全使用を組織的に支える。
- ウ：この内容は「ダブルチェックの限界を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「インシデント報告の目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「医療機器安全管理責任者の業務を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正することが重要である。責任者は機器の安全使用を組織的に支える。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q107

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：標準
学習テーマ「新規医療機器導入時研修を説明できる」について次の誤ったメモをレビューする。
「装置警報は全て解除してから使う」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- イ：重要事項を復唱し、患者・部位・造影の有無などを確認して記録へ反映する。口頭指示ではread-backによる相互確認が有効である。
- ウ：使用予定者へ安全使用の研修を行い、内容を記録してから運用する。新規医療機器導入時の研修は安全管理上重要である。
- エ：重度の急性造影剤反応を疑い、投与を中止して救急対応を要請し、気道・呼吸・循環を評価する。生命を脅かす反応では迅速な蘇生対応が必要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。新規導入時は操作、禁忌、警報、緊急停止等を含めて教育する。
- エ：この内容は「重度造影剤反応を認識できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「新規医療機器導入時研修を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。新規導入時は操作、禁忌、警報、緊急停止等を含めて教育する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q108

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：標準
学習テーマ「保守点検記録の意義を説明できる」の新人教育で「記録は安全管理に使用してはならない」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：個人の注意力だけに依存せず、手順、環境、表示、情報伝達などシステム側の要因も改善する。医療安全では人は誤る可能性があることを前提に、多層的な対策を設計する。
- イ：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- ウ：表面的な個人ミスだけでなく、事故を生じさせた潜在的なシステム要因を特定して改善する。RCAは再発防止を目的に原因の連鎖を分析する。
- エ：性能変化や故障履歴を追跡し、適切な保守計画や安全な使用判断に活用できる。保守点検の状況・修理歴等の記録は安全管理に利用する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「ヒューマンエラーの背景要因を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「RCAの目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。記録を評価して点検計画や機器更新へ反映する。

総合解説：この問題では「保守点検記録の意義を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。記録を評価して点検計画や機器更新へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q109

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：応用
学習テーマ「感染対策と機器安全を統合できる」で受験者が「患者に接触した部分だけでなく施設全体を毎回滅菌する」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：接触した装置表面を施設手順に従って清掃・消毒し、PPEを適切に外して手指衛生を行ってから次へ移動する。可搬型装置は患者間を移動するため環境表面を介した感染伝播対策が重要である。
- イ：患者に重大な被害は生じなかったものの、事故につながる可能性があった事例も含めて安全改善の対象とする。インシデントは、結果的に大きな被害がなくても再発防止のために分析する価値がある。
- ウ：予想される血液・体液への曝露や感染経路に応じて手袋、ガウン、マスク、眼防護具などを選ぶ。PPEは患者との接触内容と曝露リスクに応じて選択する。
- エ：報告件数減少だけでは安全向上と判断できず、報告抑制が起きていないか確認し、学習につながる報告文化を整える。安全文化では件数の少なさより、リスクを適切に把握し改善できることが重要である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。移動機器は患者間伝播の媒介になり得るため処理手順を標準化する。
イ：この内容は「インシデントの概念を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

ウ：この内容は「PPE選択の原則を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「安全文化と報告制度を統合して判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「感染対策と機器安全を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。移動機器は患者間伝播の媒介になり得るため処理手順を標準化する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q110

6-4 医療安全 / 感染対策・医療機器 / 器具の安全管理 難易度：応用
学習テーマ「装置警報を含む安全使用を統合できる」で類似概念を整理する中、「患者状態を確認せず注入を続ける」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：接触した装置表面を施設手順に従って清掃・消毒し、PPEを適切に外して手指衛生を行ってから次へ移動する。可搬型装置は患者間を移動するため環境表面を介した感染伝播対策が重要である。
- イ：静脈路、接続、カテーテル、設定、装置状態を確認して原因を特定し、適正な範囲で運用する。安全警報は異常を知らせる防護機能であり、理由なく無効化・緩和してはならない。
- ウ：放射性物質による汚染防止にも配慮しつつ、患者の救命処置を最優先して通常の救急対応を行う。放射性医薬品投与後であっても生命救助を遅らせない。
- エ：予想される血液・体液への曝露や感染経路に応じて手袋、ガウン、マスク、眼防護具などを選ぶ。PPEは患者との接触内容と曝露リスクに応じて選択する。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「感染対策と機器安全を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。機器警報は患者状態と装置・回路を含めて原因分析する。
ウ：この内容は「核医学薬剤と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「PPE選択の原則を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「装置警報を含む安全使用を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。機器警報は患者状態と装置・回路を含めて原因分析する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q111

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：基礎
学習テーマ「造影剤急性反応の分類を説明できる」について、研修中の受験者が「全て真のIgE依存アレルギーである」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- イ：複数の防護層が同時に破綻したと捉え、受付・ワークリスト・ベッドサイド確認をそれぞれ改善する。事故は一つのミスだけでなく複数の防御層の破綻で起こることがある。
- ウ：アレルギー様反応と生理的反応に分けて評価する。ACRでは急性反応をallergic-likeとphysiologicに分類している。
- エ：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いCPR、早期除細動が重要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「複数エラーの連鎖を分析できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。反応の種類と重症度を迅速に評価する。
- エ：この内容は「心停止時のBLSを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「造影剤急性反応の分類を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。反応の種類と重症度を迅速に評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q112

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：基礎
学習テーマ「放射性医薬品の安全管理を説明できる」の勉強会資料に「核種名だけ一致すれば患者確認は不要である」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：表面的な個人ミスだけでなく、事故を生じさせた潜在的なシステム要因を特定して改善する。RCAは再発防止を目的に原因の連鎖を分析する。
- イ：事例を共有・分析し、再発防止策やシステム改善につなげる。報告は個人処罰だけを目的とするものではなく、組織学習のために用いる。
- ウ：感染症の診断の有無にかかわらず、すべての患者の血液・体液等に感染性があり得ると考えて適用する。標準予防策は全患者に適用する基本的感染対策である。
- エ：患者、薬剤、核種、放射能、投与経路、投与時刻などを照合する。放射性医薬品は薬剤安全と放射線安全の両面で確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「RCAの目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「インシデント報告の目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「標準予防策を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。投与前後の照合・記録で誤投与を防止する。

総合解説：この問題では「放射性医薬品の安全管理を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。投与前後の照合・記録で誤投与を防止する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q113

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：基礎
学習テーマ「心停止時のBLSを説明できる」の口頭試問で受験者が「10分間観察してから対応を決める」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

- ア：心停止を疑い、緊急対応を要請して速やかにCPRを開始し、AEDまたは除細動器を準備する。2025 AHA BLSでは早期認識、緊急対応要請、質の高いCPR、早期除細動が重要である。
- イ：重要事項を復唱し、患者・部位・造影の有無などを確認して記録へ反映する。口頭指示ではread-backによる相互確認が有効である。
- ウ：事例を共有・分析し、再発防止策やシステム改善につなげる。報告は個人処罰だけを目的とするものではなく、組織学習のために用いる。
- エ：患者に重大な被害は生じなかったものの、事故につながる可能性があった事例も含めて安全改善の対象とする。インシデントは、結果的に大きな被害がなくても再発防止のために分析する価値がある。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。放射線部門でも救急カート・連絡体制を整備しておく。
- イ：この内容は「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「インシデント報告の目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「インシデントの概念を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「心停止時のBLSを説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。放射線部門でも救急カート・連絡体制を整備しておく。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q114

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：標準
学習テーマ「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」の誤答分析で「腫脹部位を確認せず撮影だけ継続する」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：患者ごとに適切な単回使用器材を使用し、使用済み鋭利物は直ちに専用容器へ廃棄する。安全な注射実践と鋭利物管理は標準予防策に含まれる。
- イ：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- ウ：重要事項を復唱し、患者・部位・造影の有無などを確認して記録へ反映する。口頭指示ではread-backによる相互確認が有効である。
- エ：急変時に必要な酸素、薬剤、気道器具、除細動器等を直ちに使用できる状態に保つため。緊急対応は器材の所在・期限・作動確認を含む事前準備が重要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「安全な注射器具の使用を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。漏出量だけでなく疼痛、皮膚、神経・循環所見を評価する。
- ウ：この内容は「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「救急カート点検の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。漏出量だけでなく疼痛、皮膚、神経・循環所見を評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q115

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：標準

学習テーマ「重度造影剤反応を認識できる」を扱う実習中の説明に「造影剤を追加投与して反応を確認する」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：患者ごとに適切な単回使用器材を使用し、使用済み鋭利物は直ちに専用容器へ廃棄する。安全な注射実践と鋭利物管理は標準予防策に含まれる。
- イ：事故が起こる前に工程の故障モードや影響を洗い出し、優先順位をつけて対策する。FMEAは予防的なリスク分析手法である。
- ウ：重度の急性造影剤反応を疑い、投与を中止して救急対応を要請し、気道・呼吸・循環を評価する。生命を脅かす反応では迅速な蘇生対応が必要である。
- エ：重要事項を復唱し、患者・部位・造影の有無などを確認して記録へ反映する。口頭指示ではread-backによる相互確認が有効である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「安全な注射器具の使用を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「FMEAの位置づけを説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。重度反応に備え薬剤・酸素・蘇生器材・応援体制を準備する。
- エ：この内容は「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「重度造影剤反応を認識できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。重度反応に備え薬剤・酸素・蘇生器材・応援体制を準備する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q116

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：標準

学習テーマ「造影剤既往歴の意味を説明できる」で「既往反応があれば患者確認は不要になる」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：患者、薬剤、核種、放射能、投与経路、投与時刻などを照合する。放射性医薬品は薬剤安全と放射線安全の両面で確認する。
- イ：接触した装置表面を施設手順に従って清掃・消毒し、PPEを適切に外して手指衛生を行ってから次へ移動する。可搬型装置は患者間を移動するため環境表面を介した感染伝播対策が重要である。
- ウ：アレルギー様反応と生理的反応に分けて評価する。ACRでは急性反応をallergic-likeとphysiologicに分類している。
- エ：既往反応は再反応リスク評価に重要であり、代替検査や造影剤選択、前投薬等を医師と検討する。同系統造影剤への既往反応は重要なリスク因子である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「放射性医薬品の安全管理を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「感染対策と機器安全を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「造影剤急性反応の分類を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。反応の種類・重症度・原因造影剤を記録して共有する。

総合解説：この問題では「造影剤既往歴の意味を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。反応の種類・重症度・原因造影剤を記録して共有する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q117

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：標準
学習テーマ「放射性医薬品誤投与時の対応を説明できる」について次の誤ったメモをレビューする。「同量を正しい薬剤で追加投与すれば問題は解決する」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：患者の安全を確認し、核種・放射能・投与時刻を特定して線量評価を行い、速やかに責任者へ報告し必要な対応を進める。誤投与では事実確認、患者評価、線量推定、報告、再発防止が必要である。
- イ：注入を停止し、局所状態を評価して施設手順に従い処置・観察する。血管外漏出では追加注入を止め、重症度と症状を評価する。
- ウ：使用予定者へ安全使用の研修を行い、内容を記録してから運用する。新規医療機器導入時の研修は安全管理上重要である。
- エ：使用部位や汚染リスクに応じ、メーカー推奨と施設手順に従って適切に清掃・消毒する。患者間で使用する機器は感染伝播を防ぐため適切に処理する必要がある。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。放射線量だけでなく薬剤安全と説明・報告を含めて対応する。
- イ：この内容は「造影剤血管外漏出の初動を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「新規医療機器導入時研修を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「画像診断装置の患者接触部の清拭を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「放射性医薬品誤投与時の対応を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。放射線量だけでなく薬剤安全と説明・報告を含めて対応する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q118

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：標準
学習テーマ「救急カート点検の意義を説明できる」の新人教育で「造影検査では急変が起こらないので不要である」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：手指衛生を行う。手指衛生は感染伝播防止の中心的対策である。
- イ：急変時に必要な酸素、薬剤、気道器具、除細動器等を直ちに使用できる状態に保つため。緊急対応は器材の所在・期限・作動確認を含む事前準備が重要である。
- ウ：表面的な個人ミスだけでなく、事故を生じさせた潜在的なシステム要因を特定して改善する。RCAは再発防止を目的に原因の連鎖を分析する。
- エ：性能変化や故障履歴を追跡し、適切な保守計画や安全な使用判断に活用できる。保守点検の状況・修理歴等の記録は安全管理に利用する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「手指衛生の基本を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。定期点検とシミュレーション訓練を組み合わせると有効である。
- ウ：この内容は「RCAの目的を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「保守点検記録の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「救急カート点検の意義を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。定期点検とシミュレーション訓練を組み合わせると有効である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q119

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：応用
学習テーマ「造影反応と心停止対応を統合できる」で受験者が「造影剤反応が確定するまでCPRを待つ」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：患者、薬剤、核種、放射能、投与経路、投与時刻などを照合する。放射性医薬品は薬剤安全と放射線安全の両面で確認する。
- イ：急変時に必要な酸素、薬剤、気道器具、除細動器等を直ちに使用できる状態に保つため。緊急対応は器材の所在・期限・作動確認を含む事前準備が重要である。
- ウ：造影検査を中止し、心停止として緊急対応を要請して直ちに高品質CPRを開始し、除細動器を準備する。原因検索より先に心停止の標準蘇生を開始する。
- エ：重要事項を復唱し、患者・部位・造影の有無などを確認して記録へ反映する。口頭指示ではread-backによる相互確認が有効である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「放射性医薬品の安全管理を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「救急カート点検の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。重度造影反応が心停止へ進行した場合も標準蘇生を最優先する。
- エ：この内容は「コミュニケーションエラーを減らす方法を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「造影反応と心停止対応を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。重度造影反応が心停止へ進行した場合も標準蘇生を最優先する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q120

6-4 医療安全 / 造影剤・放射性医薬品・救急対応 難易度：応用
学習テーマ「核医学薬剤と救急対応を統合できる」で類似概念を整理する中、「放射性患者なので救急処置を行わない」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：報告件数減少だけでは安全向上と判断できず、報告抑制が起きていないか確認し、学習につながる報告文化を整える。安全文化では件数の少なさより、リスクを適切に把握し改善できることが重要である。
- イ：既往反応は再反応リスク評価に重要であり、代替検査や造影剤選択、前投薬等を医師と検討する。同系統造影剤への既往反応は重要なリスク因子である。
- ウ：予想される血液・体液への曝露や感染経路に応じて手袋、ガウン、マスク、眼防護具などを選ぶ。PPEは患者との接触内容と曝露リスクに応じて選択する。
- エ：放射性物質による汚染防止にも配慮しつつ、患者の救命処置を最優先して通常の救急対応を行う。放射性医薬品投与後であっても生命救助を遅らせない。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「安全文化と報告制度を統合して判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「造影剤既往歴の意味を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

- ウ：この内容は「PPE選択の原則を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。核医学特有の放射線防護を追加しつつ一般的救急原則を守る。

総合解説：この問題では「核医学薬剤と救急対応を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。核医学特有の放射線防護を追加しつつ一般的救急原則を守る。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q121

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：基礎
学習テーマ「静脈路確保の業務範囲を説明できる」について、研修中の受験者が「外科手術のための動脈路を独自に確保する行為」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：造影剤を使用した検査やRI検査のための静脈路を確保する行為。2021年の業務範囲拡大により、所定の条件下で静脈路確保が追加された。
- イ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。
- ウ：既に確保された動脈路へ造影剤注入装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作する。施行規則は動脈路への接続・装置操作を規定するが、動脈路確保は除外している。
- エ：対象者の研修・技能を確認し、標準手順、患者選択、合併症時の中止基準と医師対応体制、感染対策を整備する。業務範囲拡大を安全に実装するには教育と緊急対応体制が必要である。

Q122

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：基礎
学習テーマ「静脈穿刺時の感染対策を説明できる」の勉強会資料に「手袋を着用すれば手指衛生は不要である」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：照射を開始せず、患者・計画・画像・位置合わせ情報を再確認して不一致の原因を解消する。治療開始前の不一致は照射停止の重要なシグナルである。
- イ：手指衛生を行い、清潔な器材を用い、穿刺部位を適切に消毒して無菌性を保つ。血管内へ器材を挿入するため標準予防策と無菌の手技が重要である。
- ウ：既に確保された動脈路へ造影剤注入装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作する。施行規則は動脈路への接続・装置操作を規定するが、動脈路確保は除外している。
- エ：画像利用を一時停止し、患者・オーガ・画像を確認して施設手順に従って訂正・報告し、誤診や情報漏えいを防ぐ。患者識別エラーは診断安全と個人情報保護の双方に関わる。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。静脈路確保は検査・RI投与に関連する範囲と指示・研修要件を理解して行う。
- イ：この内容は「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「動脈路関連行為の範囲を区別できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「消化管検査導入時の安全体制を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「静脈路確保の業務範囲を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。静脈路確保は検査・RI投与に関連する範囲と指示・研修要件を理解して行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「治療照合エラーを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。安全な静脈路確保では患者確認、感染対策、鋭利物管理を一体として行う。
- ウ：この内容は「動脈路関連行為の範囲を区別できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「誤患者画像を発見した際の対応を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「静脈穿刺時の感染対策を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。安全な静脈路確保では患者確認、感染対策、鋭利物管理を一体として行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q123

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：基礎
学習テーマ「抜針後の止血を説明できる」の口頭試問で受験者が「抗凝固薬の使用状況に関係なく圧迫時間は必ず同一とする」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

ア：画像利用を一時停止し、患者・オード・画像を確認して施設手順に従って訂正・報告し、誤診や情報漏えいを防ぐ。患者識別エラーは診断安全と個人情報保護の双方に関わる。
イ：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。
ウ：穿刺部を適切に圧迫し、出血が止まったことを確認してから固定・終了する。抜針後は出血・皮下血腫等を確認しながら止血する。
エ：下部では肛門カテーテル挿入・造影剤と空気の注入吸引が可能で、上部では既挿入の鼻腔カテーテルから造影剤注入・終了後抜去が可能である。現行施行規則の規定を正しく組み合わせたものである。

答え・解説

正答：ウ

ア：この内容は「誤患者画像を発見した際の対応を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「CTのDRLと個別患者を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。抗凝固薬、出血傾向、穿刺部位などを考慮して止血を確認する。
エ：この内容は「上下部消化管で認められる行為の違いを統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「抜針後の止血を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。抗凝固薬、出血傾向、穿刺部位などを考慮して止血を確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q124

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：標準
学習テーマ「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」の誤答分析で「患者名だけ確認し注入条件は見ない」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

ア：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
イ：臨床必要性、照射部位・線量、妊娠可能性を確認し、正当化と最適化を行う。妊娠の可能性だけで全ての検査を禁止するのではなく利益とリスクを評価する。
ウ：その静脈路からの高圧造影剤注入は行わず、状態を評価して必要に応じて新たな静脈路を検討する。注入前から浸潤・漏出が疑われる静脈路は使用しない。
エ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この内容は「妊娠可能性確認の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「静脈路異常時に注入可否を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。注入前確認と注入中の患者・穿刺部観察を組み合わせる。

総合解説：この問題では「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。注入前確認と注入中の患者・穿刺部観察を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q125

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：標準
学習テーマ「血管外漏出徴候を判断できる」を扱う実習中の説明に「症状があるほど静脈内注入が確実と判断する」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：血管外漏出を疑って注入を直ちに停止し、局所を評価する。疼痛・腫脹は漏出の代表的徴候であり注入継続は避ける。
- イ：注入を中止し、誤嚥の可能性を考えて呼吸状態を評価し医師へ報告する。咳嗽・呼吸苦は誤嚥や気道障害を示唆し得る。
- ウ：その静脈路からの高圧造影剤注入は行わず、状態を評価して必要に応じて新たな静脈路を検討する。注入前から浸潤・漏出が疑われる静脈路は使用しない。
- エ：静脈路へ放射性医薬品投与装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作し、投与終了後に抜針・止血する。施行規則に規定された一連の行為である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。漏出後は症状・皮膚・循環・神経所見等を評価し施設手順に従う。
- イ：この内容は「上部消化管注入時の誤嚥リスクを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「静脈路異常時に注入可否を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「RI投与装置関連行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「血管外漏出徴候を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。漏出後は症状・皮膚・循環・神経所見等を評価し施設手順に従う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q126

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：標準
学習テーマ「動脈路関連行為の範囲を区別できる」で「医師の具体的指示なしに造影剤を投与する」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- イ：既に確保された動脈路へ造影剤注入装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作する。施行規則は動脈路への接続・装置操作を規定するが、動脈路確保は除外している。
- ウ：医師または歯科医師の具体的な指示と施設手順に従って実施する。診療補助行為は具体的指示の下で安全体制を整えて行う。
- エ：危険な放射線源や装置を安全化しつつ、速やかに救急要請とCPR・除細動を開始する。救命を優先しながら放射線・機器特有の危険も制御する。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。接続・操作と血管路確保を区別して覚える。
- ウ：この内容は「消化管検査での指示要件を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「緊急時の救命優先を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「動脈路関連行為の範囲を区別できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。接続・操作と血管路確保を区別して覚える。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q127

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：標準
学習テーマ「RI投与装置関連行為を説明できる」について次の誤ったメモをレビューする。「放射性医薬品の処方独自に決定する」これに対する修正案として最も適切なものはどれか。

- ア：医師または歯科医師の具体的な指示と施設手順に従って実施する。診療補助行為は具体的指示の下で安全体制を整えて行う。
- イ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。
- ウ：静脈路へ放射性医薬品投与装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作し、投与終了後に抜針・止血する。施行規則に規定された一連の行為である。
- エ：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「消化管検査での指示要件を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。薬剤安全、放射線安全、手技安全を統合して実施する。
- エ：この内容は「CTのDRLと個別患者を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「RI投与装置関連行為を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。薬剤安全、放射線安全、手技安全を統合して実施する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q128

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：標準
学習テーマ「静脈路異常時に注入可否を判断できる」の新人教育で「造影剤を少量漏出させれば静脈路が開通する」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：注入を中止し、誤嚥の可能性を考えて呼吸状態を評価し医師へ報告する。咳嗽・呼吸苦は誤嚥や気道障害を示唆し得る。
- イ：鼻腔に既に挿入されたカテーテルから造影剤を注入し、投与終了後にそのカテーテルを抜去する。施行規則は注入と終了後の抜去を規定する。
- ウ：照射を開始せず、患者・計画・画像・位置合わせ情報を再確認して不一致の原因を解消する。治療開始前の不一致は照射停止の重要なシグナルである。
- エ：その静脈路からの高圧造影剤注入は行わず、状態を評価して必要に応じて新たな静脈路を検討する。注入前から浸潤・漏出が疑われる静脈路は使用しない。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「上部消化管注入時の誤嚥リスクを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「上部消化管検査で認められた行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「治療照合エラーを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。静脈路の状態は造影剤注入前に確認する。

総合解説：この問題では「静脈路異常時に注入可否を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。静脈路の状態は造影剤注入前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q129

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：応用
学習テーマ「静脈路確保時の迷走神経反応へ対応できる」で受験者が「必ずアレルギー様造影剤反応と断定する」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

ア：手技を中断して患者を安全な体位で観察し、バイタルを確認して必要な医療支援を要請する。穿刺刺激等で迷走神経反応が起こることがあり、転倒・循環悪化を防ぎながら評価する。
イ：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
ウ：照射を開始せず、患者・計画・画像・位置合わせ情報を再確認して不一致の原因を解消する。治療開始前の不一致は照射停止の重要なシグナルである。
エ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。手技中の急変では原因を限定せずABCとバイタルを優先する。
イ：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「治療照合エラーを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「静脈路確保時の迷走神経反応へ対応できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。手技中の急変では原因を限定せずABCとバイタルを優先する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q130

6-5 診療補助行為・総合事例 / 静脈路確保・抜針・止血・注入手技 難易度：応用
学習テーマ「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」で類似概念を整理する中、「合併症対応は技師一人に任せ医師連絡体制を設けない」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

ア：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
イ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。
ウ：患者本人、実施内容、部位、指示を複数情報で照合する。誤患者・誤部位・誤検査はモダリティを問わず重大事故につながる。
エ：注入を中止し、誤嚥の可能性を考えて呼吸状態を評価し医師へ報告する。咳嗽・呼吸苦は誤嚥や気道障害を示唆し得る。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。新規業務は教育、標準手順、監督・救急体制を含めて導入する。
ウ：この内容は「検査前患者照合を横断的に説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「上部消化管注入時の誤嚥リスクを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。新規業務は教育、標準手順、監督・救急体制を含めて導入する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q131

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：基礎
学習テーマ「下部消化管検査で認められた行為を説明できる」について、研修中の受験者が「医師の指示なしに鎮静薬を投与する」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。
- イ：医師または歯科医師の具体的な指示と施設手順に従って実施する。診療補助行為は具体的指示の下で安全体制を整えて行う。
- ウ：肛門にカテーテルを挿入し、そこから造影剤および空気を注入・吸引する。施行規則第15条の2に具体的に規定されている。
- エ：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：この内容は「CTのDRLと個別患者を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

イ：この内容は「消化管検査での指示要件を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。法令で認められた手技の範囲を具体的に理解する。

エ：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「下部消化管検査で認められた行為を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。法令で認められた手技の範囲を具体的に理解する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q132

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：基礎
学習テーマ「上部消化管検査で認められた行為を説明できる」の勉強会資料に「診療放射線技師が鼻腔カテーテルを新たに挿入する」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：手技を中断して患者を安全な体位で観察し、バイタルを確認して必要な医療支援を要請する。穿刺刺激等で迷走神経反応が起こることがあり、転倒・循環悪化を防ぎながら評価する。
- イ：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。
- ウ：手指衛生を行い、清潔な器材を用い、穿刺部位を適切に消毒して無菌性を保つ。血管内へ器材を挿入するため標準予防策と無菌的手技が重要である。
- エ：鼻腔に既に挿入されたカテーテルから造影剤を注入し、投与終了後にそのカテーテルを抜去する。施行規則は注入と終了後の抜去を規定する。

答え・解説

正答：エ

ア：この内容は「静脈路確保時の迷走神経反応へ対応できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

イ：この内容は「CTのDRLと個別患者を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

ウ：この内容は「静脈穿刺時の感染対策を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。下部検査ではカテーテル挿入が規定される一方、上部検査は既挿入カテーテルからの注入・抜去である。

総合解説：この問題では「上部消化管検査で認められた行為を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。下部検査ではカテーテル挿入が規定される一方、上部検査は既挿入カテーテルからの注入・抜去である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q133

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：標準
学習テーマ「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」の口頭試問で受験者が「疼痛が強いほど正しい位置と判断する」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なのはどれか。

ア：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
イ：下部では肛門カテーテル挿入・造影剤と空気の注入吸引が可能で、上部では既挿入の鼻腔カテーテルから造影剤注入・終了後抜去が可能である。現行施行規則の規定を正しく組み合わせたものである。
ウ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。
エ：造影剤・空気の注入を中止し、腸管穿孔などを疑って直ちに医師の評価を受ける。急激な腹痛・腹膜刺激症状は重篤な合併症を示唆する。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。抵抗・出血・強い疼痛など異常所見では中止判断が重要である。
イ：この内容は「上下部消化管で認められる行為の違いを統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
ウ：この内容は「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「下部消化管検査の穿孔疑いを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。抵抗・出血・強い疼痛など異常所見では中止判断が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q134

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：標準
学習テーマ「下部消化管検査の穿孔疑いを判断できる」の誤答分析で「空気注入量を増やして検査を完了する」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

ア：下部では肛門カテーテル挿入・造影剤と空気の注入吸引が可能で、上部では既挿入の鼻腔カテーテルから造影剤注入・終了後抜去が可能である。現行施行規則の規定を正しく組み合わせたものである。
イ：造影剤・空気の注入を中止し、腸管穿孔などを疑って直ちに医師の評価を受ける。急激な腹痛・腹膜刺激症状は重篤な合併症を示唆する。
ウ：危険な放射線源や装置を安全化しつつ、速やかに救急要請とCPR・除細動を開始する。救命を優先しながら放射線・機器特有の危険も制御する。
エ：照射停止とビームオフを確認して安全に入室し、患者を評価して必要な救急処置を行う。治療装置を安全状態にしてから救命処置へ移る。

答え・解説

正答：イ

ア：この内容は「上下部消化管で認められる行為の違いを統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。重篤な合併症疑いでは検査完遂より患者安全を優先する。
ウ：この内容は「緊急時の救命優先を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
エ：この内容は「放射線治療と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「下部消化管検査の穿孔疑いを判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。重篤な合併症疑いでは検査完遂より患者安全を優先する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q135

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：標準
学習テーマ「上部消化管注入時の誤嚥リスクを判断できる」を扱う実習中の説明に「呼吸状態を確認せず撮影を続ける」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：患者本人、実施内容、部位、指示を複数情報で照合する。誤患者・誤部位・誤検査はモダリティを問わず重大事故につながる。
- イ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- ウ：注入を中止し、誤嚥の可能性を考えて呼吸状態を評価し医師へ報告する。咳嗽・呼吸苦は誤嚥や気道障害を示唆し得る。
- エ：診断目的を満たすか確認し、満たすなら不要な再撮影を避ける。再撮影は追加被ばくを伴うため、画質不足の程度と診断必要性を評価する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「検査前患者照合を横断的に説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。呼吸症状が出現した場合は注入停止と迅速な評価が必要である。
- エ：この内容は「再撮影判断を安全面から説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「上部消化管注入時の誤嚥リスクを判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。呼吸症状が出現した場合は注入停止と迅速な評価が必要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q136

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：標準
学習テーマ「消化管検査での指示要件を説明できる」で「技師の判断だけで検査適応を決定する」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：照射停止とビームオフを確認して安全に入室し、患者を評価して必要な救急処置を行う。治療装置を安全状態にしてから救命処置へ移る。
- イ：穿刺部を適切に圧迫し、出血が止まったことを確認してから固定・終了する。抜針後は出血・皮下血腫等を確認しながら止血する。
- ウ：患者・薬剤・核種・放射能を投与直前に独立照合し、明確なラベルと物理的分離を組み合わせる。高リスク薬剤では識別、分離、照合を多重化する。
- エ：医師または歯科医師の具体的な指示と施設手順に従って実施する。診療補助行為は具体的指示の下で安全体制を整えて行う。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「放射線治療と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「抜針後の止血を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「核医学誤薬剤の予防を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。業務可能範囲と実施条件を同時に満たす。

総合解説：この問題では「消化管検査での指示要件を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。業務可能範囲と実施条件を同時に満たす。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q137

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：応用
学習テーマ「上下部消化管で認められる行為の違いを統合できる」について次の誤ったメモをレビューする。「上部でも鼻腔カテーテルの新規挿入まで規定される」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：下部では肛門カテーテル挿入・造影剤と空気の注入吸引が可能で、上部では既挿入の鼻腔カテーテルから造影剤注入・終了後抜去が可能である。現行施行規則の規定を正しく組み合わせたものである。
- イ：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
- ウ：照射を開始せず、患者・計画・画像・位置合わせ情報を再確認して不一致の原因を解消する。治療開始前の不一致は照射停止の重要なシグナルである。
- エ：造影剤を使用した検査やRI検査のための静脈路を確保する行為。2021年の業務範囲拡大により、所定の条件下で静脈路確保が追加された。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。類似する行為でも部位ごとの法定範囲が異なる。
- イ：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「治療照合エラーを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「静脈路確保の業務範囲を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「上下部消化管で認められる行為の違いを統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。類似する行為でも部位ごとの法定範囲が異なる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q138

6-5 診療補助行為・総合事例 / 上下部消化管検査の補助手技・合併症対応 難易度：応用
学習テーマ「消化管検査導入時の安全体制を統合できる」の新人教育で「法令で可能なら技能評価なしで全員に実施させる」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
- イ：対象者の研修・技能を確認し、標準手順、患者選択、合併症時の中止基準と医師対応体制、感染対策を整備する。業務範囲拡大を安全に実装するには教育と緊急対応体制が必要である。
- ウ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- エ：静脈路へ放射性医薬品投与装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作し、投与終了後に抜針・止血する。施行規則に規定された一連の行為である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。手技の法的許容と安全な臨床運用は別々に確認する。
- ウ：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「RI投与装置関連行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「消化管検査導入時の安全体制を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。手技の法的許容と安全な臨床運用は別々に確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q139

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：基礎
学習テーマ「検査前患者照合を横断的に説明できる」で受験者が「前回担当者が確認したので当日は確認しない」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：臨床必要性、照射部位・線量、妊娠可能性を確認し、正当化と最適化を行う。妊娠の可能性だけで全ての検査を禁止するのではなく利益とリスクを評価する。
- イ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- ウ：患者本人、実施内容、部位、指示を複数情報で照合する。誤患者・誤部位・誤検査はモダリティを問わず重大事故につながる。
- エ：肛門にカテーテルを挿入し、そこから造影剤および空気を注入・吸引する。施行規則第15条の2に具体的に規定されている。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「妊娠可能性確認の意義を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。高リスク工程では実施直前の独立した照合が重要である。
- エ：この内容は「下部消化管検査で認められた行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「検査前患者照合を横断的に説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。高リスク工程では実施直前の独立した照合が重要である。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q140

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：基礎
学習テーマ「妊娠可能性確認の意義を説明できる」で類似概念を整理する中、「妊娠可能性があれば医学的必要性に関係なく全て永久禁止する」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：造影剤を使用した検査やRI検査のための静脈路を確保する行為。2021年の業務範囲拡大により、所定の条件下で静脈路確保が追加された。
- イ：既に確保された動脈路へ造影剤注入装置を接続し、具体的指示の下で装置を操作する。施行規則は動脈路への接続・装置操作を規定するが、動脈路確保は除外している。
- ウ：その静脈路からの高圧造影剤注入は行わず、状態を評価して必要に応じて新たな静脈路を検討する。注入前から浸潤・漏出が疑われる静脈路は使用しない。
- エ：臨床必要性、照射部位・線量、妊娠可能性を確認し、正当化と最適化を行う。妊娠の可能性だけで全ての検査を禁止するのではなく利益とリスクを評価する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「静脈路確保の業務範囲を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「動脈路関連行為の範囲を区別できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「静脈路異常時に注入可否を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。検査・治療の利益と胎児被ばくの可能性を臨床状況に応じて評価する。

総合解説：この問題では「妊娠可能性確認の意義を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。検査・治療の利益と胎児被ばくの可能性を臨床状況に応じて評価する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q141

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：基礎
学習テーマ「装置警報の共通原則を説明できる」について、研修中の受験者が「患者状態を確認せず装置だけ再起動する」と説明した。この誤解を最も直接修正する指導内容はどれか。

- ア：警報を安易に解除せず原因を確認し、安全が確認できてから再開する。インターロックや警報は事故防止の重要な防護層である。
- イ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- ウ：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
- エ：鼻腔に既に挿入されたカテーテルから造影剤を注入し、投与終了後にそのカテーテルを抜去する。施行規則は注入と終了後の抜去を規定する。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。機器異常と患者状態を合わせて確認する。
- イ：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「上部消化管検査で認められた行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「装置警報の共通原則を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。機器異常と患者状態を合わせて確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q142

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：基礎
学習テーマ「緊急時の救命優先を説明できる」の勉強会資料に「患者が放射性医薬品投与後なら触れない」という記載があった。この記載を修正する際に採用すべき説明はどれか。

- ア：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。
- イ：危険な放射線源や装置を安全化しつつ、速やかに救急要請とCPR・除細動を開始する。救命を優先しながら放射線・機器特有の危険も制御する。
- ウ：手指衛生を行い、清潔な器材を用い、穿刺部位を適切に消毒して無菌性を保つ。血管内へ器材を挿入するため標準予防策と無菌的手技が重要である。
- エ：肛門にカテーテルを挿入し、そこから造影剤および空気を注入・吸引する。施行規則第15条の2に具体的に規定されている。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。モダリティ固有リスクを制御して標準蘇生を行う。
- ウ：この内容は「静脈穿刺時の感染対策を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「下部消化管検査で認められた行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「緊急時の救命優先を説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。モダリティ固有リスクを制御して標準蘇生を行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q143

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：標準
学習テーマ「誤患者画像を発見した際の対応を判断できる」の口頭試問で受験者が「問題を隠すため画像を削除する」と回答した。理解を正すための追加説明として最も適切なものはどれか。

- ア：造影剤を使用した検査やRI検査のための静脈路を確保する行為。2021年の業務範囲拡大により、所定の条件下で静脈路確保が追加された。
- イ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- ウ：画像利用を一時停止し、患者・オード・画像を確認して施設手順に従って訂正・報告し、誤診や情報漏えいを防ぐ。患者識別エラーは診断安全と個人情報保護の双方に関わる。
- エ：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「静脈路確保の業務範囲を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。情報訂正と原因分析を組織的に行う。
- エ：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「誤患者画像を発見した際の対応を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。情報訂正と原因分析を組織的に行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q144

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：標準
学習テーマ「核医学汚染と患者急変を同時に判断できる」の誤答分析で「患者だけ対応し汚染区域を無制限に開放する」という理解が判明した。復習事項として最も優先すべき内容はどれか。

- ア：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。
- イ：診断目的を満たすか確認し、満たすなら不要な再撮影を避ける。再撮影は追加被ばくを伴うため、画質不足の程度と診断必要性を評価する。
- ウ：照射停止とビームオフを確認して安全に入室し、患者を評価して必要な救急処置を行う。治療装置を安全状態にしてから救命処置へ移る。
- エ：患者の生命・循環状態をまず評価し救急対応を行い、同時に可能な範囲で汚染区域を封じ込めて応援を要請する。救命と汚染拡大防止を役割分担して並行して行う。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「CTのDRLと個別患者を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「再撮影判断を安全面から説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「放射線治療と救急対応を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。複合事故では優先順位と役割分担を明確にする。

総合解説：この問題では「核医学汚染と患者急変を同時に判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。複合事故では優先順位と役割分担を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q145

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：標準
学習テーマ「治療照合エラーを判断できる」を扱う実習中の説明に「患者が正しければ部位不一致を無視して照射する」という誤りが含まれていた。指導者のフィードバックとして最も適切なのはどれか。

- ア：照射を開始せず、患者・計画・画像・位置合わせ情報を再確認して不一致の原因を解消する。治療開始前の不一致は照射停止の重要なシグナルである。
- イ：患者・造影剤・注入条件を照合し、静脈路の接続状態や注入可能性を確認する。誤患者・誤薬剤・接続不良・血管外漏出を防ぐため複数事項を確認する。
- ウ：肛門にカテーテルを挿入し、そこから造影剤および空気を注入・吸引する。施行規則第15条の2に具体的に規定されている。
- エ：血管外漏出を疑って注入を直ちに停止し、局所を評価する。疼痛・腫脹は漏出の代表的徴候であり注入継続は避ける。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。高精度治療では患者・計画・位置の三者一致を確認する。
- イ：この内容は「造影剤注入装置接続時の安全確認を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「下部消化管検査で認められた行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「血管外漏出徴候を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「治療照合エラーを判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。高精度治療では患者・計画・位置の三者一致を確認する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q146

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：標準
学習テーマ「CTのDRLと個別患者を判断できる」で「DRLは患者体格と無関係なので全例同じ条件にする」という記述と混同しないために、正しく整理しておくべき内容はどれか。

- ア：造影剤・空気の注入を中止し、腸管穿孔などを疑って直ちに医師の評価を受ける。急激な腹痛・腹膜刺激症状は重篤な合併症を示唆する。
- イ：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。
- ウ：下部では肛門カテーテル挿入・造影剤と空気の注入吸引が可能で、上部では既挿入の鼻腔カテーテルから造影剤注入・終了後抜去が可能である。現行施行規則の規定を正しく組み合わせたものである。
- エ：手指衛生を行い、清潔な器材を用い、穿刺部位を適切に消毒して無菌性を保つ。血管内へ器材を挿入するため標準予防策と無菌的手技が重要である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「下部消化管検査の穿孔疑いを判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。施設代表線量の最適化と個別患者の撮影条件を区別する。
- ウ：この内容は「上下部消化管で認められる行為の違いを統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「静脈穿刺時の感染対策を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「CTのDRLと個別患者を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。施設代表線量の最適化と個別患者の撮影条件を区別する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q147

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：標準
学習テーマ「核医学誤薬剤の予防を判断できる」について次の誤ったメモをレビューする。「忙しい時間帯は患者確認を省略する」これに対する修正案として最も適切なのはどれか。

- ア：造影剤を使用した検査やRI検査のための静脈路を確保する行為。2021年の業務範囲拡大により、所定の条件下で静脈路確保が追加された。
- イ：患者の生命・循環状態をまず評価し救急対応を行い、同時に可能な範囲で汚染区域を封じ込めて応援を要請する。救命と汚染拡大防止を役割分担して並行して行う。
- ウ：患者・薬剤・核種・放射能を投与直前に独立照合し、明確なラベルと物理的分離を組み合わせる。高リスク薬剤では識別、分離、照合を多重化する。
- エ：無理に進めず手技を中止して状態を確認し、医師へ報告する。抵抗や強い疼痛は損傷リスクを示すため無理な操作を避ける。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この内容は「静脈路確保の業務範囲を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「核医学汚染と患者急変を同時に判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。バーコード等の技術的対策と人的確認を組み合わせる。
- エ：この内容は「下部消化管カテーテル挿入時の異常を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「核医学誤薬剤の予防を判断できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。バーコード等の技術的対策と人的確認を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q148

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：標準
学習テーマ「再撮影判断を安全面から説明できる」の新人教育で「診断範囲が欠けていても再撮影は絶対にしない」という理解が示された。事故や誤判断を防ぐために強調すべき原則はどれか。

- ア：造影剤を使用した検査やRI検査のための静脈路を確保する行為。2021年の業務範囲拡大により、所定の条件下で静脈路確保が追加された。
- イ：警報を安易に解除せず原因を確認し、安全が確認できてから再開する。インターロックや警報は事故防止の重要な防護層である。
- ウ：肛門にカテーテルを挿入し、そこから造影剤および空気を注入・吸引する。施行規則第15条の2に具体的に規定されている。
- エ：診断目的を満たすか確認し、満たすなら不要な再撮影を避ける。再撮影は追加被ばくを伴うため、画質不足の程度と診断必要性を評価する。

答え・解説

正答：エ

- ア：この内容は「静脈路確保の業務範囲を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この内容は「装置警報の共通原則を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「下部消化管検査で認められた行為を説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。画像品質と患者線量の両方を評価して判断する。

総合解説：この問題では「再撮影判断を安全面から説明できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。画像品質と患者線量の両方を評価して判断する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q149

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：応用
学習テーマ「複合エラー時の優先順位を統合できる」で受験者が「患者名が似ているのでどちらに投与してもよい」を正しいと考えている。正しい根拠へ導く説明として最も適切なのはどれか。

- ア：投与を中止し両患者を正しく再確認し、誤投与がないことを確認した上でインシデントとして工程を分析する。未然に防げた場合も、患者識別・案内・薬剤照合の複数工程を見直す価値がある。
- イ：患者本人、実施内容、部位、指示を複数情報で照合する。誤患者・誤部位・誤検査はモダリティを問わず重大事故につながる。
- ウ：DRL超過だけで個人患者の不適切検査とは断定せず、臨床目的・体格・画質と施設代表値を分けて評価する。DRLは標準的検査の施設最適化指標であり個人線量限度ではない。
- エ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明が設問中の誤解を直接修正する。ニアミスを組織学習へつなげ、実際の事故を予防する。
- イ：この内容は「検査前患者照合を横断的に説明できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- ウ：この内容は「CTのDRLと個別患者を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

エ：この内容は「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「複合エラー時の優先順位を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。ニアミスを組織学習へつなげ、実際の事故を予防する。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09

Q150

6-5 診療補助行為・総合事例 / X線・核医学・治療を横断した総合安全事例 難易度：応用
学習テーマ「放射線治療と救急対応を統合できる」で類似概念を整理する中、「救急処置より治療完遂を優先する」という混同が起きた。区別のために採用すべき説明はどれか。

- ア：患者の生命・循環状態をまず評価し救急対応を行い、同時に可能な範囲で汚染区域を封じ込めて応援を要請する。救命と汚染拡大防止を役割分担して並行して行う。
- イ：照射停止とビームオフを確認して安全に入室し、患者を評価して必要な救急処置を行う。治療装置を安全状態にしてから救命処置へ移る。
- ウ：画像利用を一時停止し、患者・オーダ・画像を確認して施設手順に従って訂正・報告し、誤診や情報漏えいを防ぐ。患者識別エラーは診断安全と個人情報保護の双方に関わる。
- エ：法令上の対象・必要研修を確認し、医師の具体的指示、手順書、技能評価、感染対策、合併症時の医師対応体制を整える。タスクシフトは業務移管だけでなく安全な実施体制の整備が前提である。

答え・解説

正答：イ

- ア：この内容は「核医学汚染と患者急変を同時に判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- イ：この説明が設問中の誤解を直接修正する。装置固有の危険源を停止した上で標準救急対応を行う。
- ウ：この内容は「誤患者画像を発見した際の対応を判断できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。
- エ：この内容は「静脈路確保業務の導入条件を統合できる」に関する説明であり、設問中の誤解を直接修正する内容ではない。

総合解説：この問題では「放射線治療と救急対応を統合できる」について、誤答を見抜いて正しい原則へ修正できることが重要である。装置固有の危険源を停止した上で標準救急対応を行う。

対象：2026年度 / 基準日：2026-09-09